



AI-2 カメラダッシュカム
ADPLUS 2.0

取扱説明書 Version 1.0

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明のとおり正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。

目 次

はじめに.....	- 1 -
免責について.....	- 2 -
安全上の注意.....	- 4 -
ご使用のお願い.....	- 11 -
製品外形と名称.....	- 14 -
AI 機能.....	- 16 -
システムの制限.....	- 17 -
構成品一覧表.....	- 18 -
取り付け方法.....	- 19 -
機能動作仕様.....	- 22 -
ADPLUS2.0 取扱説明書.....	- 24 -
1. システム接続模式図.....	- 24 -
2. 取り付けの前.....	- 26 -
3. 迅速な取り付け方.....	- 27 -
3.1. 手順 1:SIM カードとメモ리카ードの取り付け.....	- 27 -
3.2. 手順 2:ダッシュカムの取り付け位置の選択.....	- 28 -
3.3. 手順 3:ダッシュカムブラケットの取り付け.....	- 29 -
3.4. 手順 4:ダッシュカムの取り付け.....	- 30 -
3.5. 手順 5:ダッシュカム角度の調整および固定.....	- 31 -
3.6. 手順 6:ルーチングおよび電気供給.....	- 31 -
3.7. 手順 6:ルーチングおよび電気供給.....	- 32 -
3.8. 手順 7:アプリの操作および接続.....	- 33 -
3.9. 手順 8:ダッシュカム検出状態のチェック.....	- 34 -
3.10. 手順 9:ADAS レンズのキャリブレーション.....	- 35 -
3.11. 手順 10:運転席カメラのキャリブレーション.....	- 39 -
4. ビデオ再生.....	- 41 -
4.1. ビデオ再生.....	- 41 -

4.2. ビデオエクスポート	- 42 -
5. 基本設定	- 43 -
5.1. 登録情報	- 43 -
5.2. 時間の設定	- 43 -
5.3. デバイスのオン／オフ、スリープの設定	- 44 -
5.4. ユーザーの設定	- 45 -
5.5. ネットワークの設定	- 45 -
5.6. 音声設定	- 47 -
5.7. ビデオ設定	错误！未定义书签。
5.8. アラーム設定	- 49 -
特別な機能の操作説明	- 59 -
故障かなと思ったら	- 61 -
製品仕様	- 64 -
1. AD Plus 2.0 仕様	- 64 -
2. 寸法図(単位:mm)	- 69 -

はじめに

本書における「本製品」とは特別な表記がない限り ADPLUS2.0 を表すものとします。AD Plus 2.0 システムは、通常のダッシュカム機能に加えて、知能運転支援機能を備えています。

本製品をで使用になる前に本書を必ずで覧頂き、記載内容を守って正しくお使いください。

本書には、使用時の重要な情報や、利用者や他の人々の危害、財産の損害を未然に防ぎ、本製品を安全に使用するための事項が示されています。

本書は、必要なときにすぐに参照できるように保管されることを推奨します。

本書の内容は、本製品や関連ソフトウェアの更新に伴い予告なく変更される場合があります。また、お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

本書では、本製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

表示の説明

次の記号を使用して、不適切な操作によって発生する潜在的危険を分類して説明します。

符号	符号の意味
	警告: 警告事項に従わなかった場合、物的損害や重大な人身傷害が発生する恐れがあります。
	重要提示: 注意事項に従わなかった場合、誤検出、物的損害や軽微な人身傷害が発生する恐れがあります。
	註釈: 追加の説明、用語の説明など。

限定と免責について

● 限定使用ライセンス

STREAMAX の当該製品に組み込まれたソフトウェアは日本鋭明技術株式会社の専有財産に属します。日本鋭明技術株式会社は購入者にソフトウェア使用の非独占的なライセンスのみを付与し、購入者は次のことをしてはいけません。(a)製品に使用されている、または STREAMAX の製品に付随して提供されているソフトウェアと製品を修正、改装、変更または転換すること。(b)リバースアセンブル、逆コンパイル、逆アセンブル等を行ってソフトウェアのソースコードを取得しようとする行為。(c)譲渡、再許諾、賃貸、賃借、貸与、移転、開示等により当該ソフトウェアを取得する行為。(d)製品又は対応する文書から所有権の表示を除去すること。

● 限定保証

STREAMAX の本製品の限定保証は譲渡することができず、購入日から1年間(または適用される法律の規定に基づいて)、STREAMAX の製品を車両に設置した最初の購入者に対して、製品に材料またはプロセス上の欠陥が発生しないことを保証します。本限定保証に基づき、日本鋭明技術株式会社が STREAMAX の製品の材料またはプロセスに欠陥があると判断した場合、日本鋭明技術株式会社の唯一の責任は修理または交換(日本鋭明技術株式会社が決定)を提供することです。日本鋭明技術株式会社は設置によるいかなる問題に対しても責任を負いません。次の場合は、保証の対象外となります。(a)誤った使用、過失、誤った設置、または事故による損傷。(b)適用されない車両に STREAMAX の製品を設置すること。(c)日本鋭明技術株式会社以外の第三者による STREAMAX の本製品の修理または変更。(d)製品の設置または取り外しは、STREAMAX が授権した設置者以外の者によって実行されていること。

● 免責事項

この限定保証は、STREAMAX の本製品に対する唯一かつ排他的な保証です。日本鋭明技術株式会社は、適用される法律で許可されている範囲内で、他のすべての商品性または特定用途[^]の適用性についての明示的または暗示的な保証を否定します。いかなる代表、ディストリビューター、ディーラーまたは代理は、日本鋭明技術株式会社を代表して STREAMAX

の当該製品に関する声明、保証または合意を行う権利を有しません。日本鋭明技術株式会社は、ここに明記された声明の内容を除き、その他いかなる声明や保証も行いません。AD Plus2.0 システムは安全運転支援製品であり、不適切な取り付け使用。不適切な操作、不適切な運転、故障などによるいかなる結果的損失または付随的損失についても、日本鋭明技術株式会社はいかなる法律および賠償責任も負いません。いかなる場合においても、日本鋭明技術株式会社は、STREAMAX の当該製品に関連して、または STREAMAX の当該製品の使用によって引き起こされたいかなる特殊、付随、接、懲罰的、偶発的、従属的、または懲戒的な損害に対しても責任を負いません。

- 日本鋭明技術株式会社はすべての権利を留保します。日本鋭明技術株式会社の書面による許可なく、いかなる形式でも本マニュアルの内容を複製、抜粋、コピーすることはできません。

商標について

Streamaxは Shenzhen Streamax Technology Co., Ltd の登録商標です。本書に記載されているその他の商標は、それぞれの所有者に帰属します。

安全上の注意



本製品のご使用について

ADPlus2.0 製品を液体に接触させることを厳禁します。製品を水に浸したり、湿らせたりしないようにしてください。製品内部に水が入り込むと、ショートする危険性があります。	 警告
AD Plus 2.0 製品は 9VDC～36VDC の電源でのみ動作します。誤った電源供給は製品に損傷を与え、物的損害と人身傷害を引き起こす恐れがあります。	 警告
ADPlus 2.0 製品の車内動作温度範囲は-40℃～70℃、車内動作湿度範囲は15%～90%で、過度に高いまたは過度に低い温度/湿度の環境下での使用を禁止します。	 警告
運転の安全性に影響を与えないようにするために、運転中の機器のデバッグや APP 操作を禁止します。	 警告
本製品を改造することは禁止されています。ダッシュカムの損傷やその他の損失を防ぐために、本製品の標準装備および正常に動作している電源コードなどの付属品を使用してください。	 警告
AD Plus 2.0 システムは、一部の潜在的な危険状況下で運転者に警報を提供することができる安全運転知能支援システムであります。これは、自動車を運転する際の運転者の通常の操作に取って代わることはできず、いかなる状況	 提示

においても運転者の警戒心を低下させることはできず、運転者は依然としてすべての安全運転基準と慣行を遵守し交通規則と法規を遵守しなければなりません。	
AD Plus 2.0 システムは自動運転システムではなく運転者の運転制御操作や安全運転慣行に取って代わるものではありません。運転者は ADPlus2.0 システムに最小限でも依存してはならず、常に慎重に運転の安全を確保し、事故を回避しなければなりません。	 警告

電源ケーブルの取り扱いについて

電源ケーブルを取り扱うときは次の点を守ります



警告

- 強く引っばったり、折り曲げない
- 結んだ状態で使用しない
- 折れ曲がったり、ねじれた状態で使用しない
- 加工したり、傷つけたりしない
- 膨らんでいたたり、傷ついたケーブルは使用しない重いものを載せない
- ドアなどにはさまない
- 加熱したり、熱器具に近づけたりしない
- 水・湿気のかかる場所で使用しない
- 束れたままで使用しない

守らないと、火災・やけど・感電のおそれがあります。



警告

本製品及び周辺機器の取り扱いについて



警告

本製品の近くに液体の入った容器や、「ステープル・クリップ」などの金属物を置かない 異物(金属片・液体など)が本体の内部に入ると火災・感電の原因となります。異物が内部に入った場合は、すぐに電源を切ってください。	 禁止
水がかかったり、湿度の高い場所あるいは屋外などの雨や霧が入り込む場所では使用しない 火災・感電の原因となります。また結露に注意してください。	 禁止
コネクタに金属製品を接触させない 金属製のヘアピンやクリップなどがコネクタなどに触れると発熱の原因となります。	 禁止
本製品の孔をふさがない内部温度が高くなり、故障・発熱の原因となります。	 禁止
本製品は精密な電子部品で構成されており、下記のような取り扱いをすると、データが破損する恐れがあります。 ※本体に静電気や電気ノイズが加わった場合※水に濡らしたり、強い衝撃を与えた場合※長時間使用しなかった場合	 提示

無線通信の取り扱いについて



警告

心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離す電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。	 提示
本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は安全な場所に車を止めてエンジンを切り、本製品の電源を止めてください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。	 提示

マイクロ TF カードスロットの取り扱いについて



警告

マイクロ TF カードスロットには、異物が混入していないかを十分確認してから 取り 付ける 破損の原因となります。	 指示
無理な力で取り付け・取り外しを行わない 破損の原因となります。	 禁止

取り付け、配線について



警告

本製品は運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付け、配線する 誤った取り付け、配線は、交通事故の原因となります。	 提示
取り付け、配線は確実に行う 本製品などの脱落・落下等によるけがや事故、物的損害を被るおそれがあります。	 提示
エアバッグの近くに取り付けたり、配線をしたりしない エアバッグが誤って作動した場合、本製品が飛び出し、事故や怪我の原因となる可能性があります。また、ケーブルがエアバッグの正常な作動を妨げることがあります。	 禁止
突起物などで怪我をするおそれがあるため、取り付けや配線、取り外しは十分注意する 突起物でけがをするおそれがあります。	 禁止

ご使用のお願い

AD Plus 2.0 システムには、最新のコンピュータビジョンソフトウェアおよびその他の革新的なテクノロジーが搭載されていますが、車両、歩行者、交通標識、車線、および車両走行中の運転者の疲労、気散ら、喫煙、電話応対などの行動を 100% 正確に検出することは保証されていません。したがって、関連する音声または視覚的な警告を提供することは保証されていません。また、路面、光線、天候、その他の状況は本システムの認識と反応能力に大きな影響を与えます。

注意

運転者は ADPlus 2.0 システムに依存して運転の安全を確保するのではなく、安全運転慣行を遵守し続けるべきであります。	 提示
AD Plus 2.0 システムの警報表示装置(R-Watch)を使用する場合は慎重になるべき必要があります、警報表示装置 (R-Watch)を見るときを含め、どのような状況でも、常に道路状況に注意を払う必要があります。	
ビデオカメラ装置や AD Plus 2.0 製品の表示警報装置を隠したり遮ったりしないでください。	
車両の状況、運転方式、走行環境などの違いにより、AD Plus 2.0 製品の一部の機能が正常に機能しない可能性があります。	
異常な停電、異常な温度、激しい衝突、ストレージの破損などにより、製品の機能が無効になる可能性があります。	
SIM カードまたは TF メモリーカードを交換するときは、必ず電源を切ってください。産業用 SIM カード(MP2)が必要であり、通常の SIM カード(MP1)の使用は禁止されています。一般的な SIM カードを使用したことによるいかなる問題についても、当社は責任を負いません。	

本製品は、最大容量 256GB の class10Tf 高速カードに対応します。当社のテスト要件を満たす正規のチャネルで購入された高品質のメモ리카ードを使用してください。メモ리카ードの品質に起因するいかなる損失は、当社とは一切関係ありません。	
AD Plus 2.0 システムは、本製品マニュアルに記載されている以外の目的で使用することはできません。	
各タイプおよび/または各年タイプの車両には搭載できない場合があります。AD Plus 2.0 システムを購入する前に、日本鋭明技術株式会社および/またはサプライヤーに確認してください。	
法律で許可されている範囲内で本製品を使用してください。	

略語説明

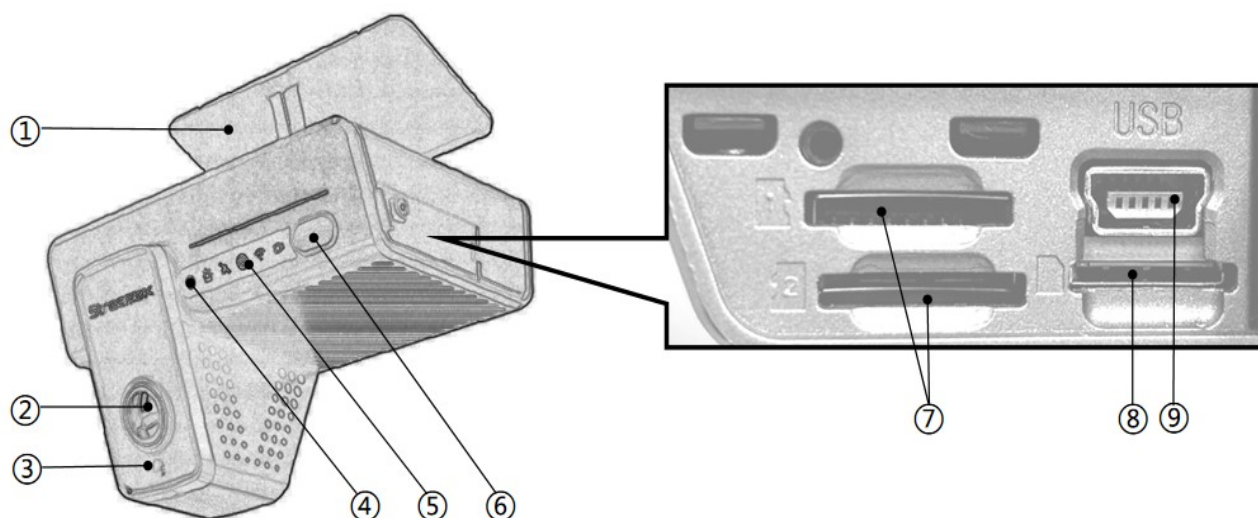
略語	正式名称
ADAS	先進運転支援システム
DSC	ドライバー安全コックピット
DMS	ドライバーモニタリングシステム
LDW	車線逸脱警報
HMW	前方車間距離警報
FCW	前方車衝突警報
BSD	死角検出

関連製品

略語	正式名称
R-Watch	警報提示装置
Veyes	Streamax 製品の運用・設置・設定用アプリ
C29N	プロ仕様のドライバー疲労検知カメラ

製品外形と名称

製品外形



各部の名称

① プラケット	② 運転席カメラ
③ 受光素子	④ 電源およびアラーム状態表示ランプ
⑤ 動作状態表示ランプ	⑥ メインマイク カスタム機能ボタン
⑦ デュアル TF カードスロット	⑧ SIM カードスロット
⑨ Micro USB インターフェース	

製品の特徴

- 超広角 140° DFOV ロードフェイスングレンズ、最大 1920P UHD ビデオ録画対応
- 超広角 170° DFOV ドライバーフェイスングレンズ、最大 1080P HD ビデオ録画対応
- 最大 4 チャンネルビデオ録画
- H.264/H.265 エンコーディング
- 2x512 GB デュアル Micro TF カードストレージ、メインストリームとサブストリームの同時ストレージをサポート

-
- 内蔵 Wi-Fi 4G 通信モジュールと慣性航法測位モジュール
 - AES256 暗号化ビデオ/オーディオデータ暗号化プロトコル TLS1.3 データ伝送
 - 3 チャンネル IO 入力、1 チャンネル CAN、1 チャンネル RS232、1 チャンネル I ボタン
 - コンパクトなデザイン、車両のサイズに関係なくドライバーの視界に影響を与えない
 - OBD 電源供給、迅速な取り付けが簡単
 - 内蔵 ADAS 機能、車線逸脱警告 (LDW)、前方車衝突警告 (FCW)、前方車間距離警報 (HMW) をサポート
 - 内蔵 DSC 機能、危険な運転行動の検出をサポート
 - エコー & ノイズキャンセリングアルゴリズムをサポートし、双方向オーディオ通信の品質を向上
 - スリープモード、リモートウェイクアップ
 - 内蔵 6 軸 G センサー、急加速、急減速、急カーブ、事故検出をサポート

AI 機能

AD Plus2.0 は、ビデオ分析技術に基づく機械視覚を使用して、道路リスクやドライバーの不安全な運転行動を自動的に検出します。検出されたイベントは、リアルタイムで運転者に視覚的および聴覚的なリマインダーをトリガーし、イベントビデオもクラウドにアップロードできます。

➤ ADAS 機能

		
LDW	HMW	FCW

➤ DSC 機能

			
レンズカバー	あくび	携帯使用	喫煙
			
わき見	ドライバー不在	シートベルト未装着	

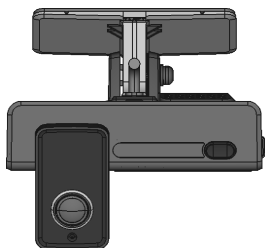
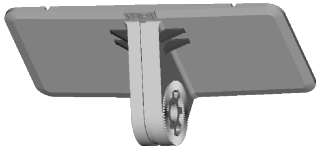
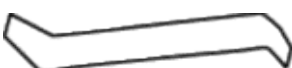
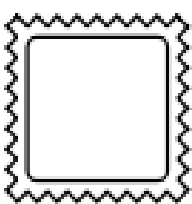
システムの制限

人工知能技術の制限に基づいて、AD Plus2.0 システムが備える知能運転支援関連機能は以下の制限を有しています。

- AD Plus2.0 システムは、運転者の代わりに道路状況を「観察」すること、および/または運転者の行動を強制的に規制することはできません。運転者は運転中常に警戒心と規範を保持、自分の状態と道路状況に応じて運転しなければなりません。
- AD Plus2.0 システムの ADAS 機能は、車線が明確な舗装道路に適しています。
- AD Plus2.0 システムの ADAS 機能は、完全に見える車両の後部のみを検出します。そのため、通り抜け車両、対向車両、通過車両を検出することはできません。
- AD Plus2.0 システムの DMS 機能は、画面中の運転者の五感の特徴の一部または全部がばやけたり遮蔽されたりする場合、正確な警報を発生させることを保証することができません。
- AD Plus2.0 システムは、車両、歩行者、車線を検出する場合、または潜在的な道路交通傷害に対して警告する場合、または運転者の過労、喫煙、電話応対、気散らしなどの危険な運転行為に対して警告する場合に、100%の精度を保証することはできません。また、路面、天候、その他の状況は AD Plus 2.0 システムの識別と反応能力に大きな影響を与えます。ビデオカメラの視界の一部または全部を遮蔽すると、AD Plus2.0 製品の機能が喪失し、または低下する恐れがあります。カメラの視界がはっきりしていることを必ず確認してください。

構成品一覧表

開梱後、ダッシュカムに不備がなく付属品が揃っているか確認して下さい。

		
本体*1	ブラケット*1	電源ボックス*1
		
OBD ケーブル*1	ファイバーハーネス*1	内張りはがし*1
		
螺子回し	ファイバーハーネス*1	ブラケット用ネジ*2
		+ その他のオプション品
防湿剤*1	アルコールクロス*1	



ユーザーのオーダーの違いにより、同梱される電源コードには、OBD ケーブルまたはファイバーハーネスの 1 つしか含まれていない可能性があります

取り付け方法

性能を十分発揮するために、下記を守って取り付けてください。

フロントガラスへの取り付けは、道路運送車両法の保安基準により設置場所が指定されています。運転者の視界の妨げにならないようにフロントガラス上部からフロントガラス全体 20% 以内のルームミラーと干渉しない場所に設置してください。

- 検査標章などと重ならず、検査標章などが映り込まない場所に取り付けてください。
- 鮮明に録画を行うためにワイパーの稼動範囲に設置することを推奨いたします。
- 地デジ・ラジオや ETC 等のアンテナ近くには本体及び配線を設置しないでください。それ

らの感度が低下する場合があります。

- 本製品の近くに GPS 受信機能を持つ製品等を設置しないでください。
- フロントガラスのセラミックラインなどが映らないように取り付けてください。
- 安全運転支援機能のカメラや防眩ミラーのセンサー等がある場合、車両取扱説明書に記載

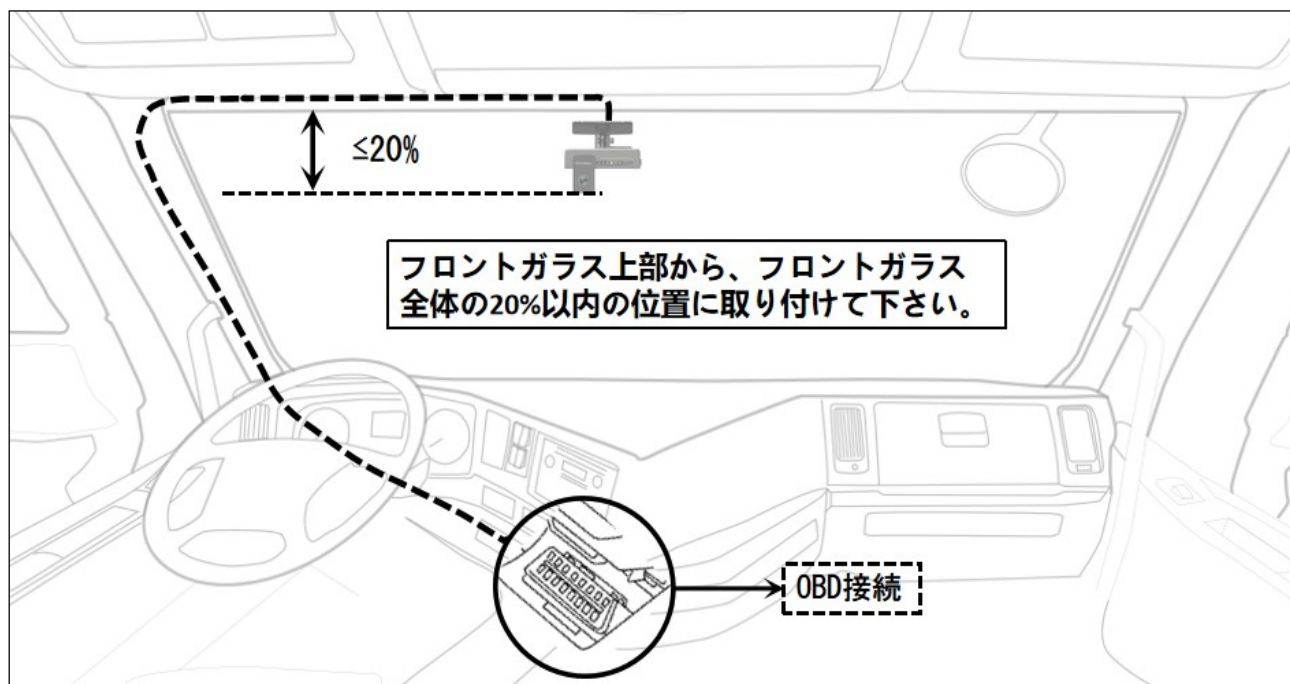
の禁止エリアを避けて、取り付けてください。

- 本機の LED インジケータ-が確認でき、microTF カードを挿入/取り出しできる位置に取り付けてください。

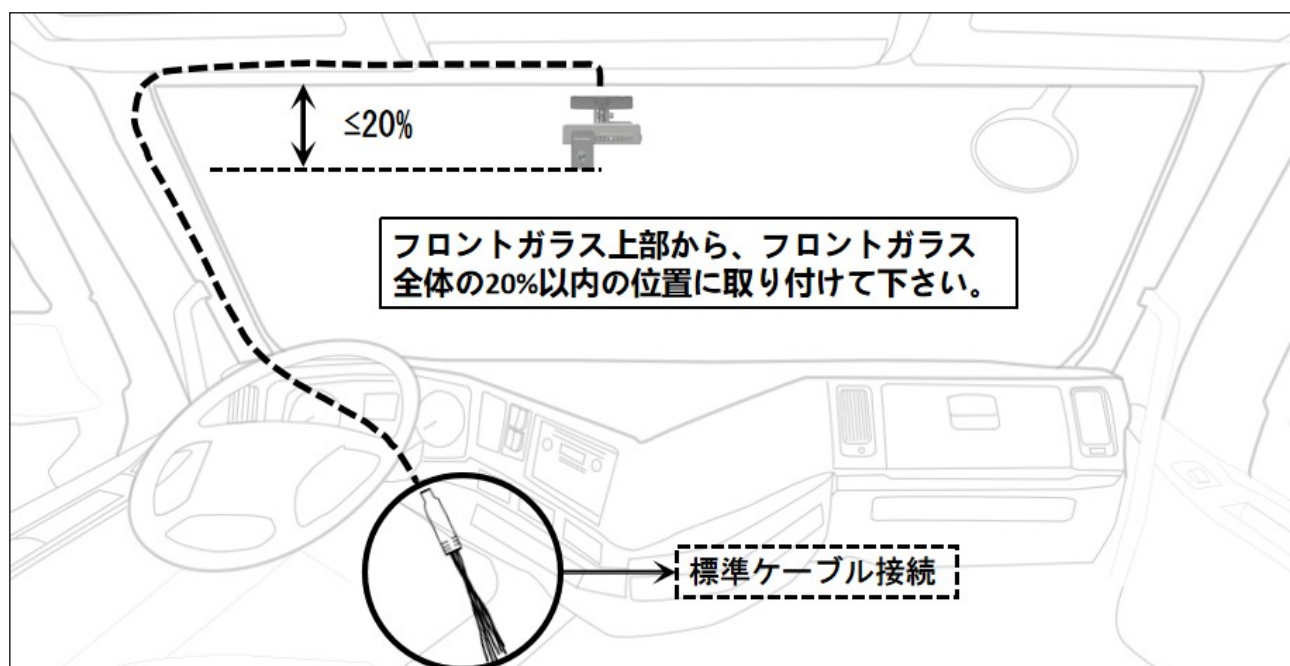
- 車両装備品(エアバッグ、その他装備)の動作を妨げないように、取り付けおよび配線を行ってください。

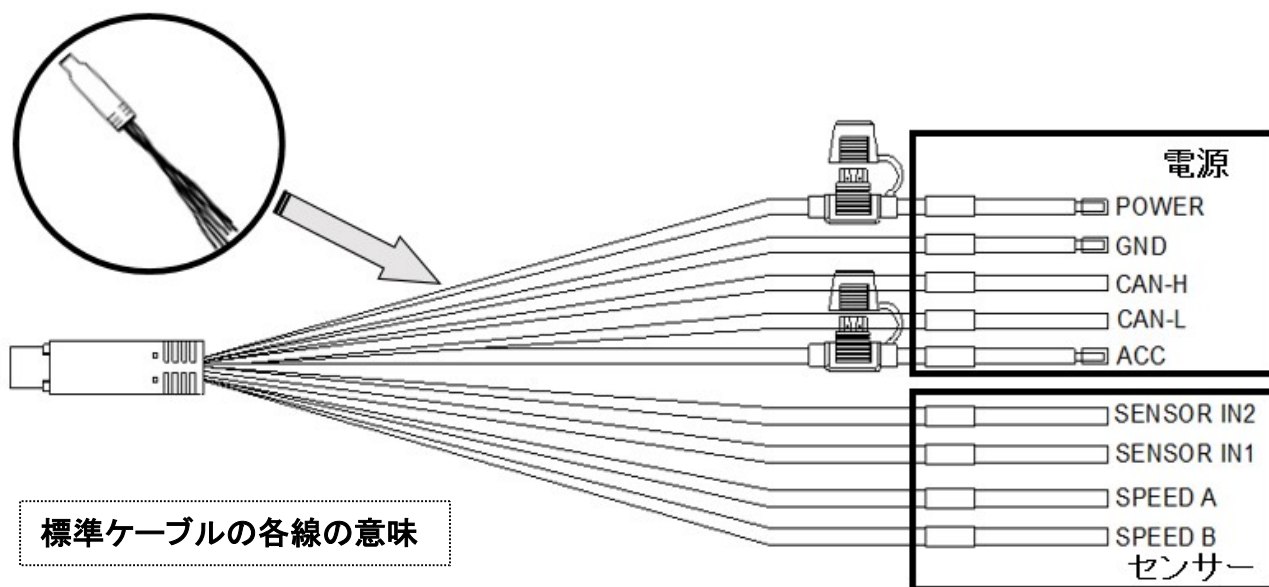
- 鉄粉入りの熱反射ガラスやメタリックフィルム等を装着している場合は GPS を測位できない場合がありますのでご注意ください。

接続方法 1---OBD で電源`を取る



接続方法 2---標準ケーブルで電源とセンサーを取る

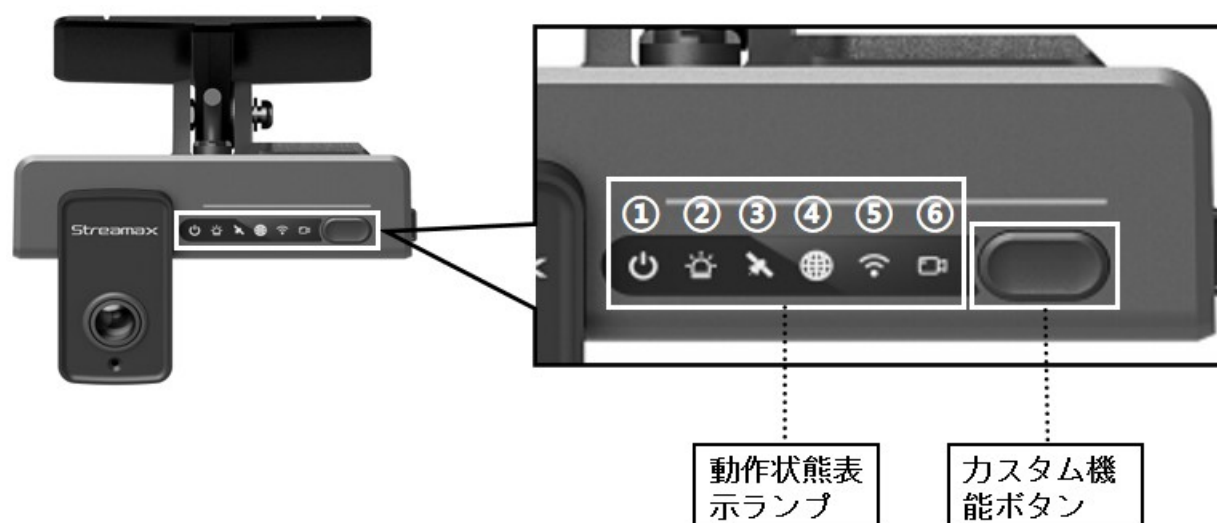




ケーブルの各線		
	赤 Power(+)	車両 DC ケーブルへ接続
	黄 ACC(+)	車両 ACC 線へ接続
	黒 GND(-)	車両 GND へ接続
	センサー1	左折へ接続
	センサー2	右折へ接続
 警告	➤ 同梱している電源アダプターの赤色線をバッテリー線に接続し、黄色線を「ACC またはイグニッション ON」で 12～24V 供給している配線に接続し、黒色線を GND に接続します ➤ パッケージ内のヒューズを挿入してください、さもないと、デバイスは動作しません	

 提示	➤ 左右のターン接続は非常に重要ですが、信号の確認が慎重に行われないと、ADAS は道路情報を正確に検出できず、警報の精度が低下したり、機能が使用できなくなります。 ➤ インストールとキャリブレーションによって引き起こされる異常機能には責任を負いません。
--------	--

機能動作仕様



➤ 機能ボタンの説明

単押し	2 秒以内に 1 回押して緊急アラームをトリガーします。緊急アラームは関連する設定で有効にしてください。ベースアラームのパネルアラーム を参照してください。
ダブル押し	2 秒以内に 2 回押して Wi-Fi の AP モードを開始します。 - 設備の Wi-Fi モードは Client モード(Wi-Fi ホットスポットが動作しない)から AP モード (Wi-Fi ホットスポットが動作し、スマホやタブレットで接続可能)に切り替わります。 - 切り替わった後、3 分以内に接続されていない場合、設備の Wi-Fi モードは自動的に AP モードから Client モードに切り替わります。
長押し	2 秒以上押してプライバシーモードをオンまたはオフにします。ビデオアラームの プライバシーアラームの説明 を参照してください。



カスタム機能ボタン緊急アラームをトリガーしたり、プライバシー保護機能をオン/オフしたり、Wi-Fi 状態を切り替えたりすることができます。この機能はカスタム編集に対応しています。

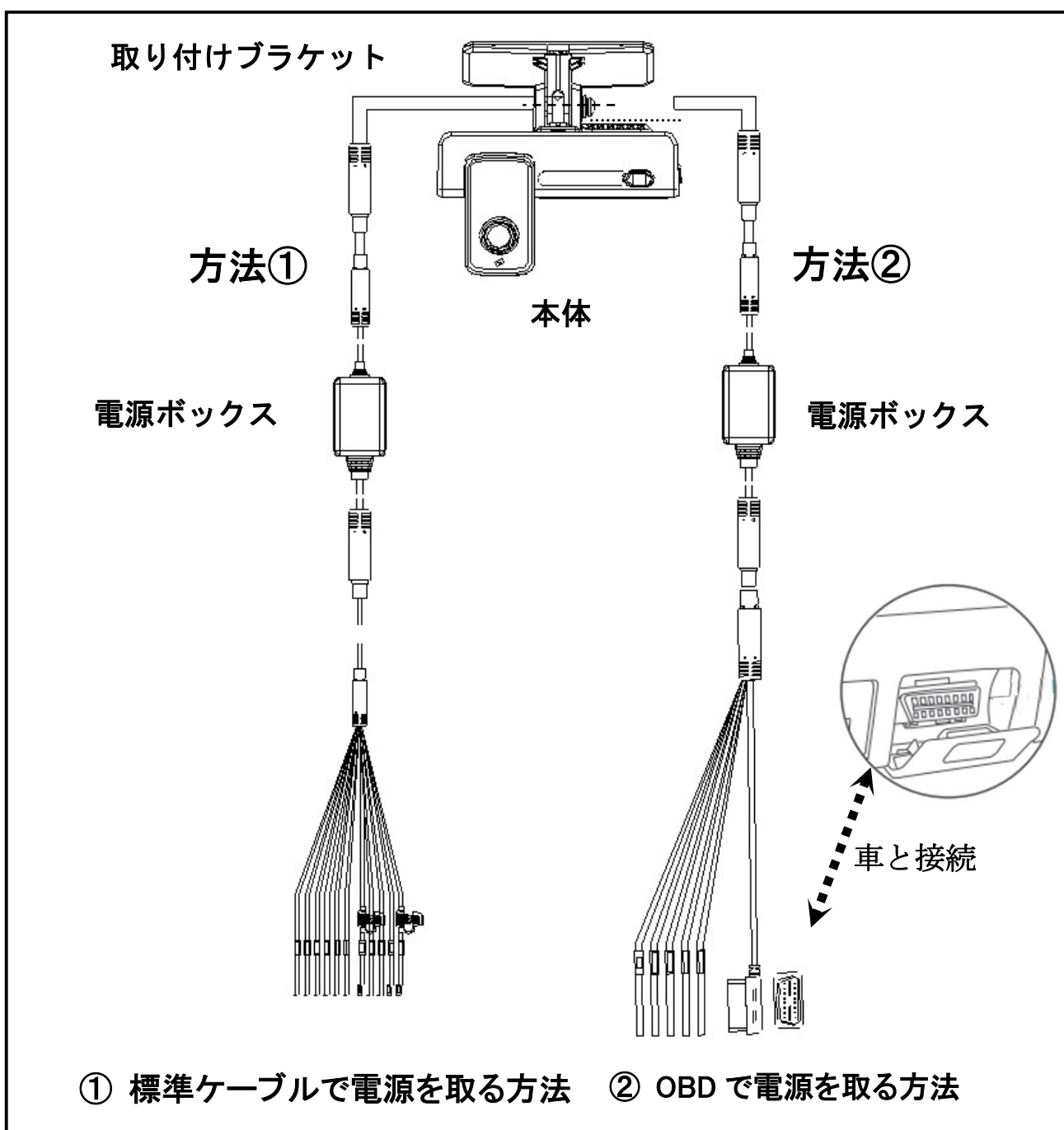
➤ 動作状態表示ランプ

①		電源状態ライト: ● オフ: デバイスが電源オフ ● 緑点灯: デバイスが正常に電源オン
②		アラーム表示: ● オフ: デバイスにアラームなし ● 赤が 3 回点滅: デバイスにアラーム発生
③		GPS 信号表示: ● オフ: デバイスの位置情報が正常 ● 赤点灯: デバイスの位置情報が異常 ● 赤点滅(1 秒に 1 回): デバイスの位置情報が不良
④		ネットワーク状態表示: ● オフ: デバイスがサーバーに正常に接続 ● 赤点灯: デバイスがサーバーに異常に接続 ● 赤点滅(1 秒に 1 回): デバイスが飛行機モード * 飛行機モード: ガソリンスタンドに入るときにダッシュカムのネットワーク信号をオフにして安全を確保
⑤		Wi-Fi 状態表示: ● オフ: デバイスが無効またはクライアントモード ● 緑点灯: デバイスが AP モード ● 赤点灯: デバイスの Wi-Fi が異常
⑥		録画状態表示: ● オフ: 内蔵カメラまたは拡張カメラが正常に動作 ● 赤点灯: 内蔵カメラまたは拡張カメラは停止します(プライバシー・モードを含む)/失敗します。 * 録画機能が有効な場合(メインストリーム、サブストリーム)、録画が検出されないとプロンプトが表示されます。録画機能が無効(メインストリーム、サブストリーム)の場合は、通常の録画状態となります。

以下のシステム接続図は、主なコンポーネントの接続方法を示します。

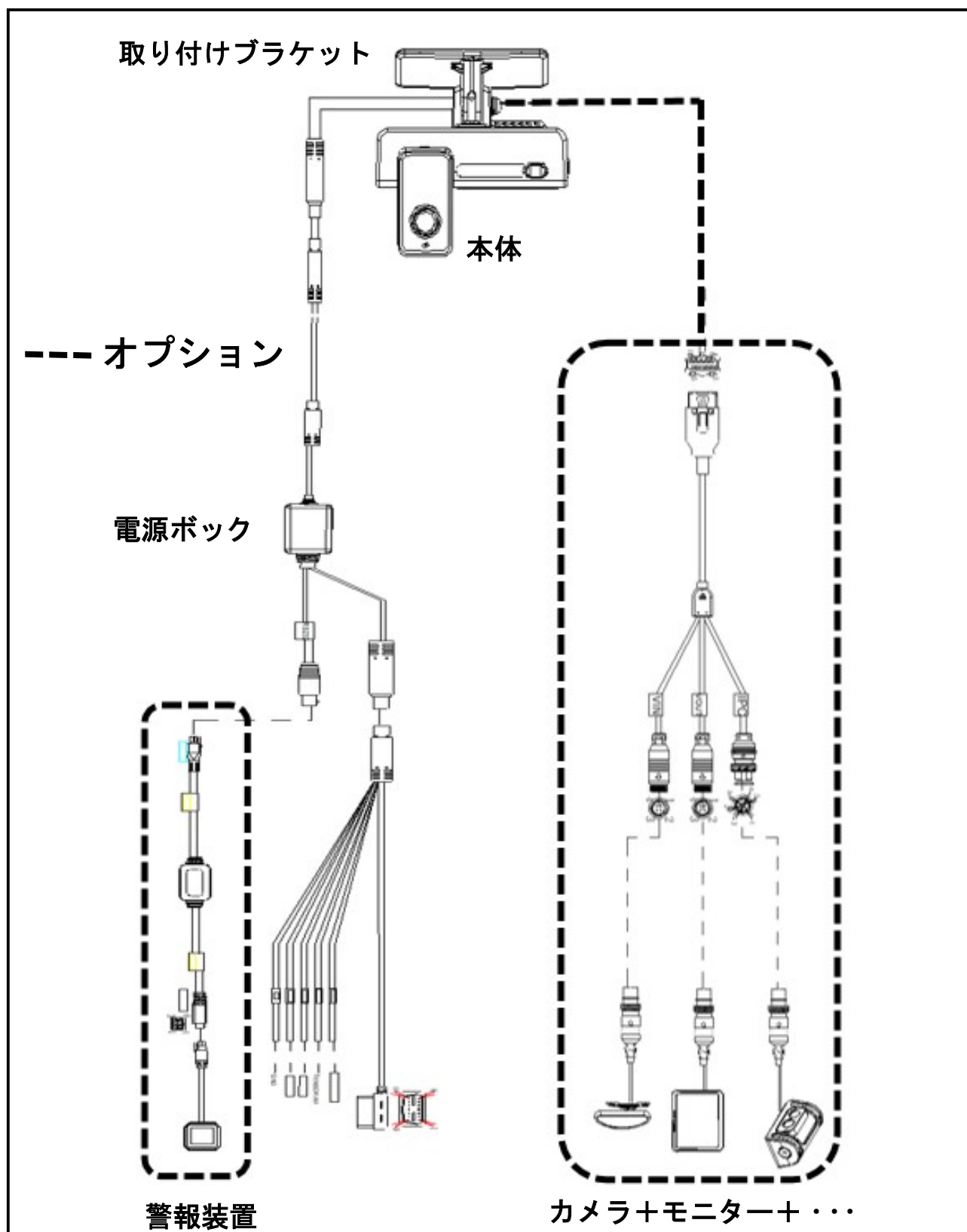
1. システム接続模式図

➤ 本体単品接続模式図



➤ 本体とオプション製品の接続模式図(例)

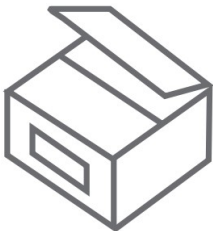
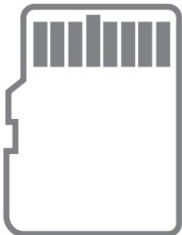
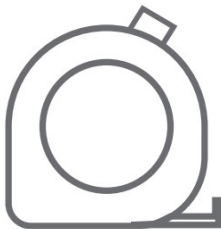
本製品にはさまざまなカメラやその他の製品を搭載することができ、より多くのニーズに対応できます。



2. 取り付けの前

2.1. 準備材料

2.1.1. 取り付けの前、以下の準備が必要です。以下の取り付け材料およびツールをご用意ください。

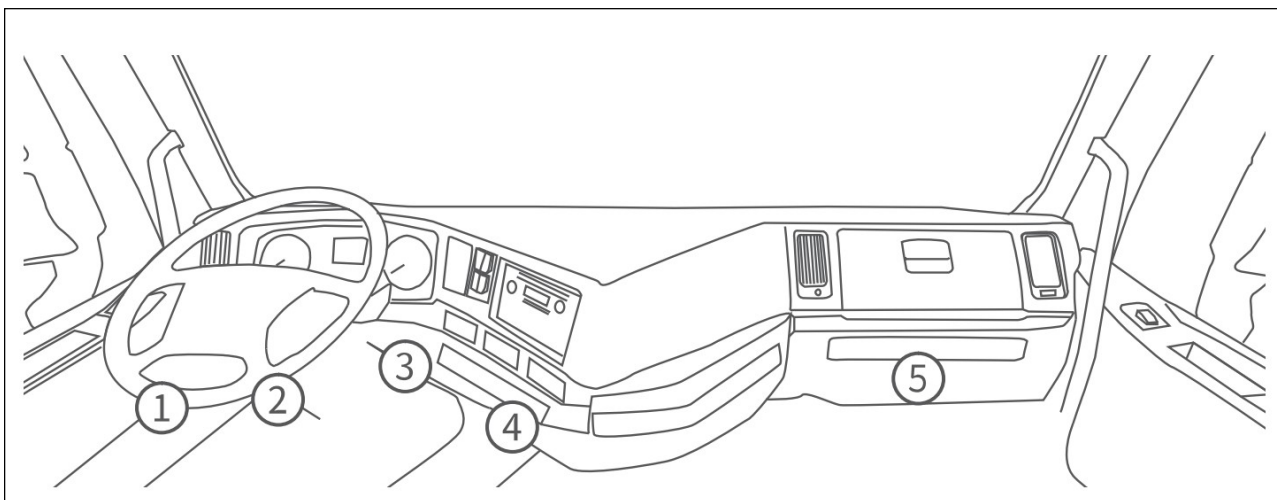
		
製品セット	Nano SIM カード	ドライバー
		
Micro TF カード	スチール巻尺(5 メートル)	スマートフォン/タブレット



スマホやタブレットを使用して Apple Store または Google Play にログインし、Veyes アプリを検索、ダウンロード、インストールしてください。

2.1.2. 駐車の注意

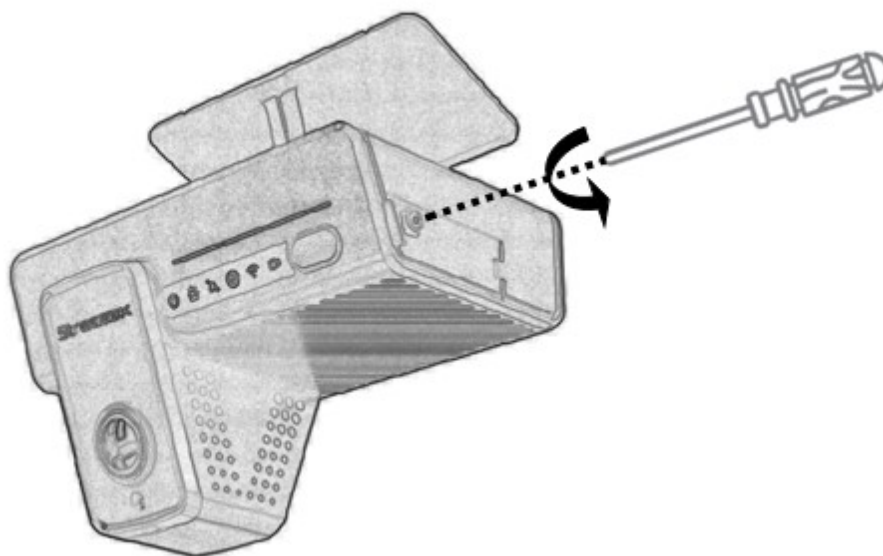
車両を水平な地面に駐車してエンジンを停止し、車両の OBD インターフェースの位置を見つけて下さい(通常、以下の図①～⑤に示す位置)。OBD インターフェースの場所がわからない場合、専門の設置者に連絡し、ワイヤーハーネスを使用して電気を供給して下さい。



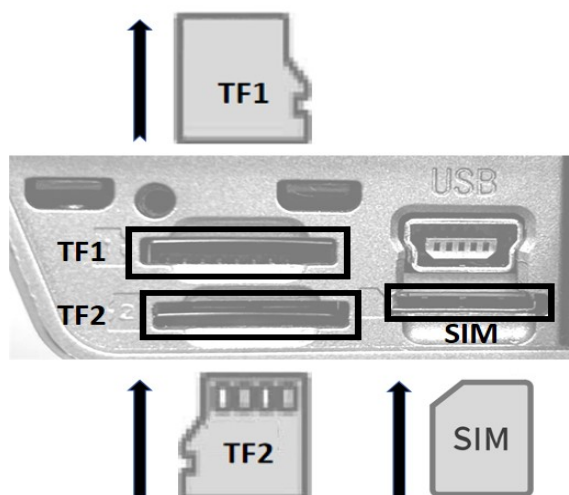
3. 迅速な取り付け方

3.1. 手順 1:SIM カードとメモ리카ードの取り付け

本体を取り出し(電源なし)、セット中のドライバーを使用して反時計回りに回し、本体の下部にあるカードスロットパネルを開きます。



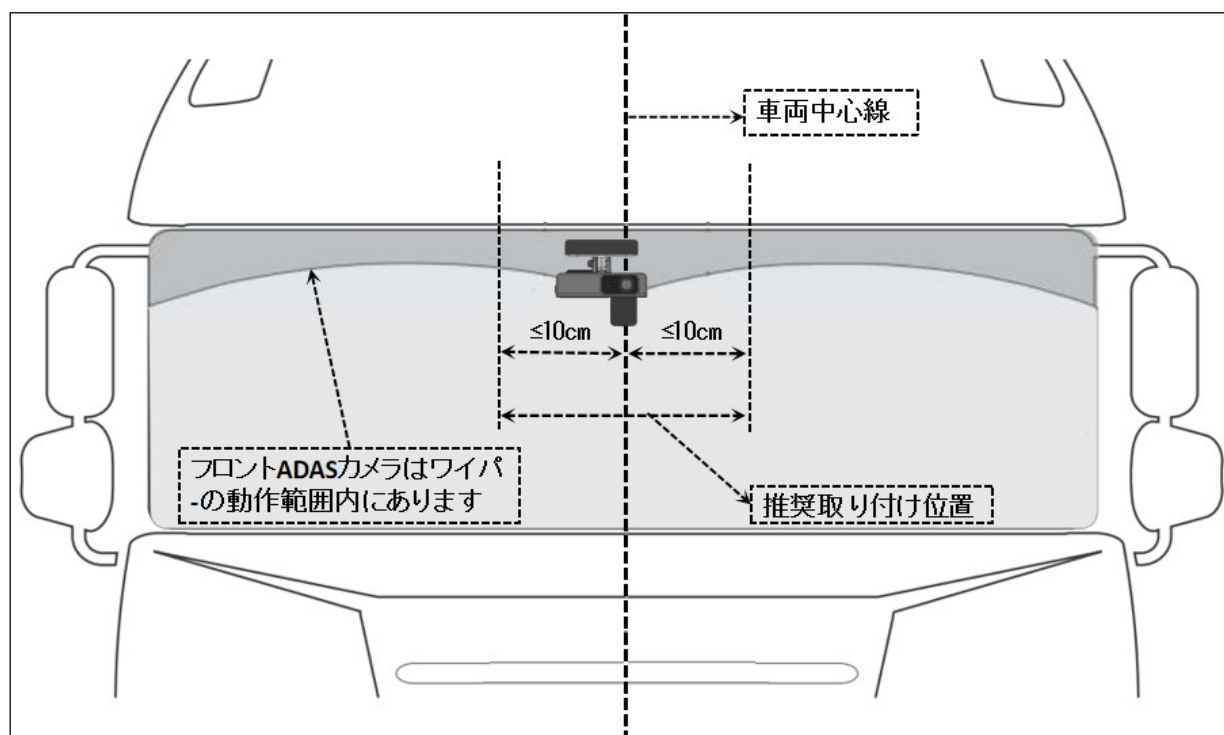
以下の図のように SIM カードと TF カードを挿入します(カードの押し込み方向に注意)押し込む時にスムーズで弾性があり、完全に押し込み「カチッ」と音がすれば、挿入方向が正しいことを示します押し込む時に明らかな違和感がある場合、押し込み方向が間違っています。カードとカードホルダの破損をさせないため取り出して下さい。



SIM カードと TF カードを取り付けたら、カードスロットパネルを締めます

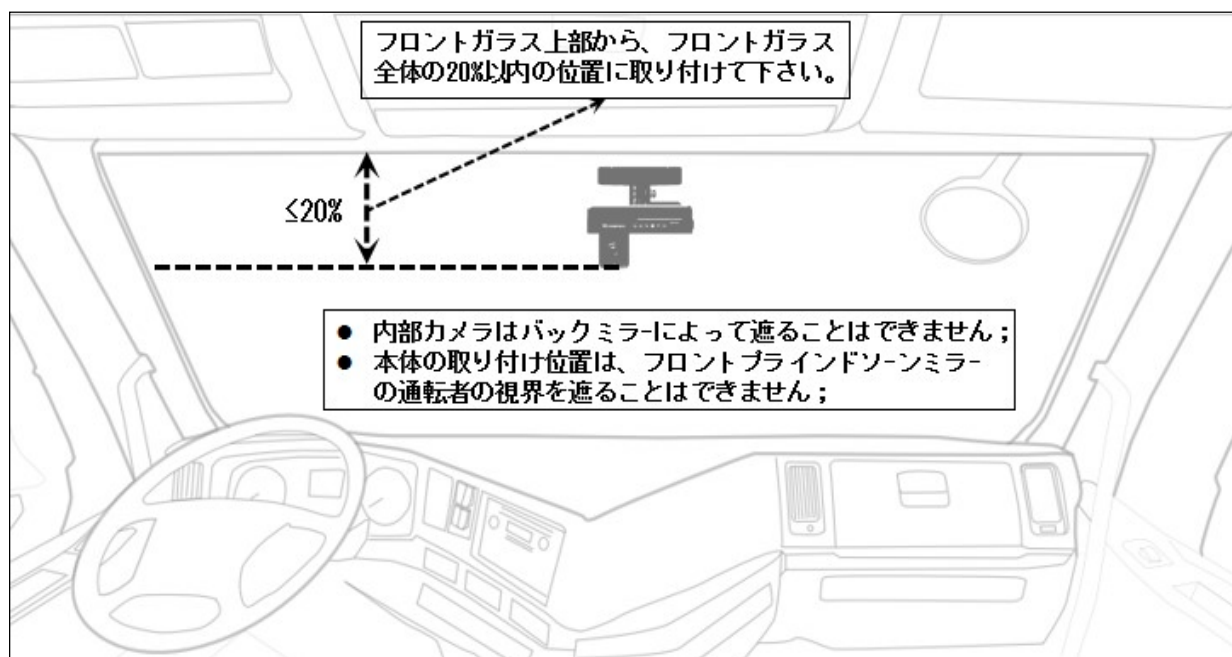
3.2. 手順 2: ダッシュカムの取り付け位置の選択

ダッシュカムはフロントガラスの中心線より上のバックミラーエリアに設置する必要があります。もし、中央に取り付けられない場合は、取り付け位置の左右のオフセットが 10 センチを超えないようにして下さい(前向きレンズの中心線は、フロントガラスの中心線に対するダッシュカムの左右のオフセットを計算するためのインジゲーターとして使用されます)。



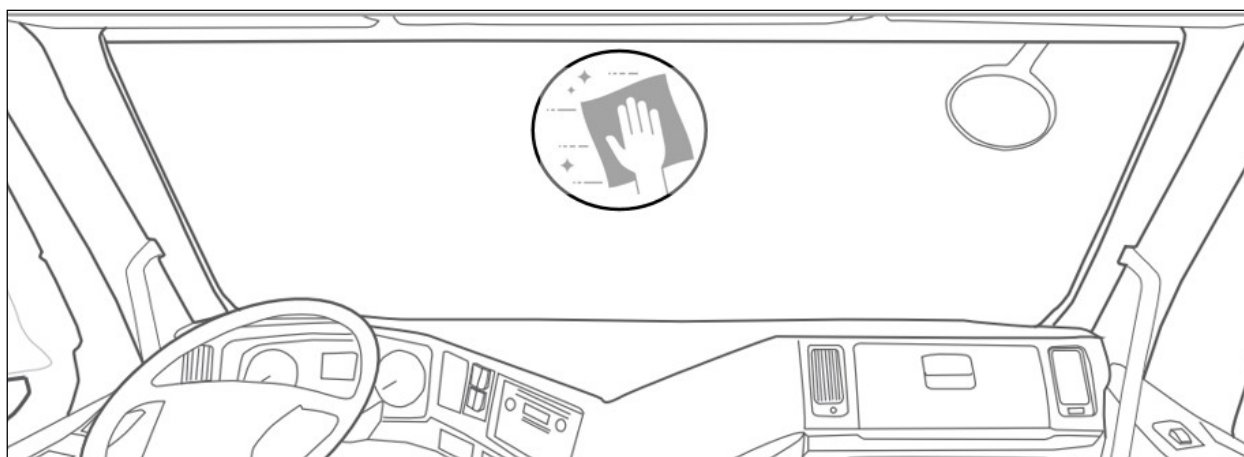
取り付け位置を決める時、ダッシュカムはフロントプラインドソーンミラーの運転者の視界を遮ってはいけません。また、内部および外部レンズ(内部バックミラーやガラスコーティングなど)の前および周

囲で視界が遮られることはなく、外部レンズは左右のワイパーの動作範囲内にあることに注意して下さい。



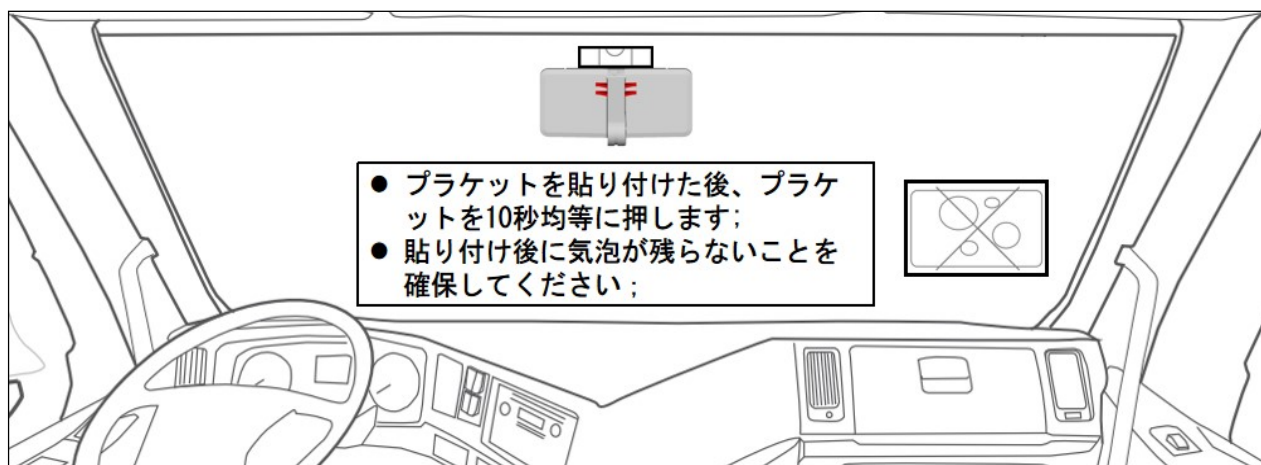
3.3. 手順 3:ダッシュカムプラケットの取り付け

アルコールクロスを使用し、AD Plus 2.0 の取り付け位置の内側と外側のガラスを清掃して下さい。該当位置のガラスに外部レンズの視界に影響がある汚れがないようにし乾燥していることを確認します。



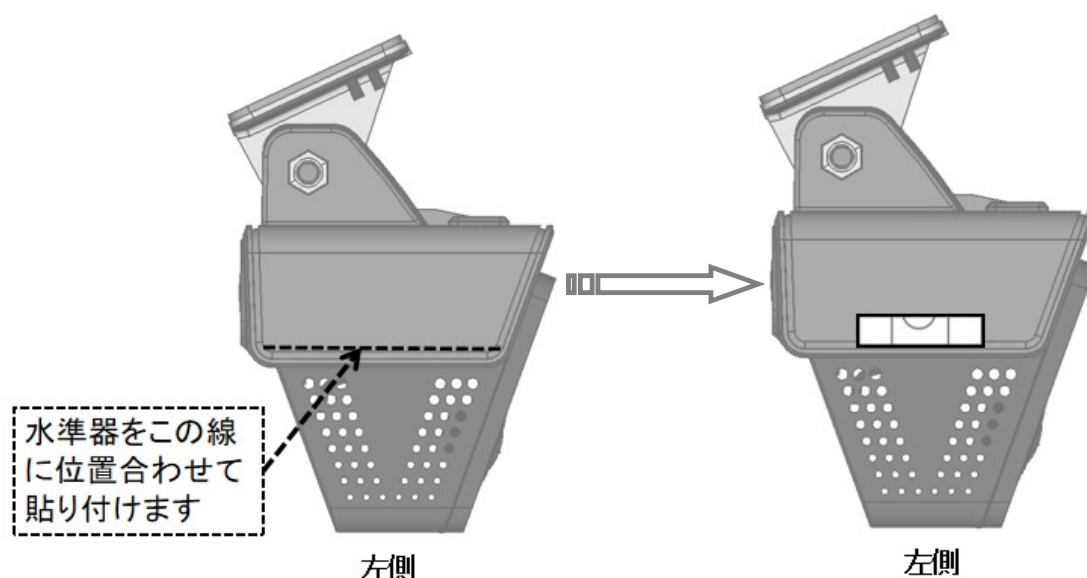
- 車西が水平に駐車することを前提として、水準器をターゲット位置の上に水平に貼り付けます(水準器の傾斜角度を調整して気泡を中央に配置)。
- 取り付けプラケットを貼り付ける時、プラケットの接続点を下向きにします(歯のある片側が左向き)。

- 取り付けブラケットの 3M 接着フィルムをはがし 水準器に基づいてフロントガラスに取り付けブラケットを水平に貼り付け、ブラケットとガラスとの間に気泡が残らないようにブラケットを 30 秒間押します。



3.4. 手順 4:ダッシュカムの取り付け

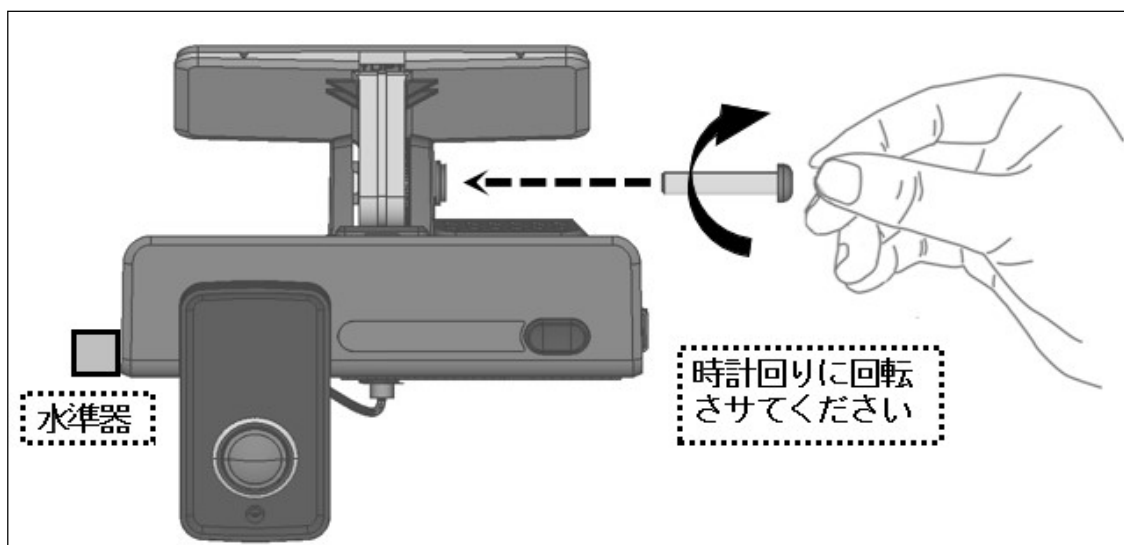
- 貼り付け時、ブラケットの歯のある片側を左側に置き、本体の接続部で歯と噛み合います
- 取り付けブラケットを水平に固定した後、水準器を取り外し本体の右側の下図に示すエリアに位置合わせして配置します



提示

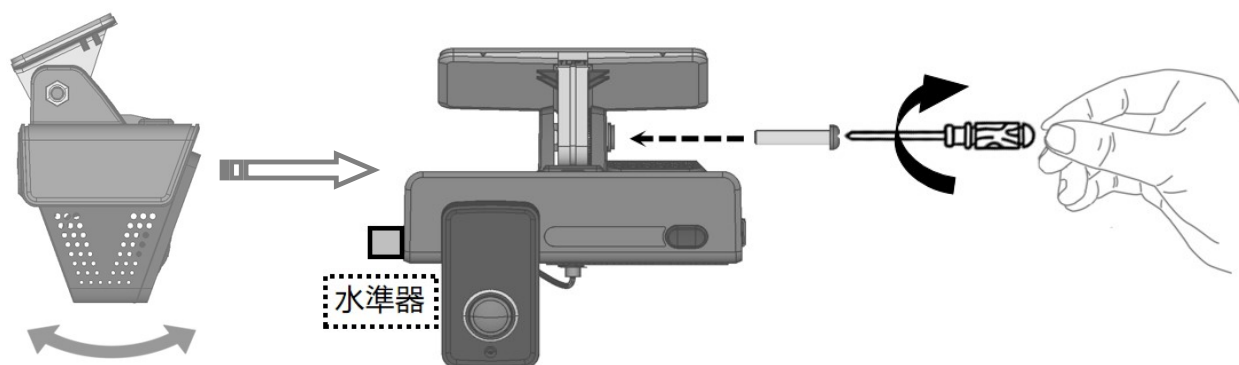
水準器は標準装備されておらず、オプションで購入する必要があります。

- ドライブレコーダーの前面を内側に向けて取り付けプラケットに接続し(取り付けプラケットの左側の歯は、ドライブレコーダーの左側の内側の南と噛み合う)、プラケット用ネジを時計回りにれじ込みます(最初に締めないで、ドライブレコーダーを垂直に調整してから締めます)



3.5. 手順 5:ダッシュカム角度の調整および固定

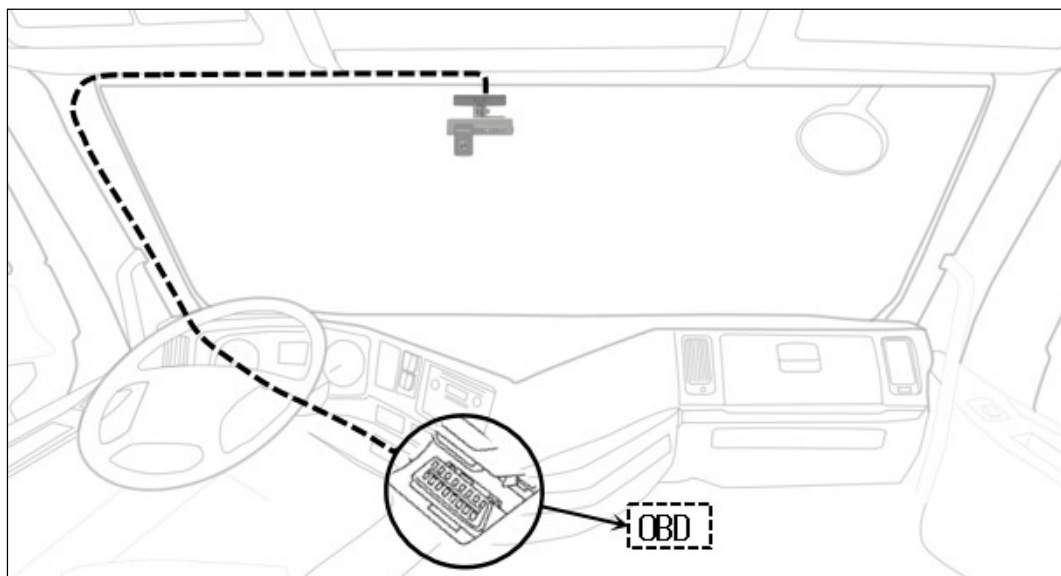
- ドライブレコーダーを前後に調整し、気泡を水準器の中央に配置します(この時点でドライブレコーダーが垂直であることを示します)プラケット用ネジを締め、ドライブレコーダーの角度が簡単に変わらないようにし、水準器を取り外しドライブレコーダーの固定を完了します



3.6. 手順 6:ルーチングおよび電気供給

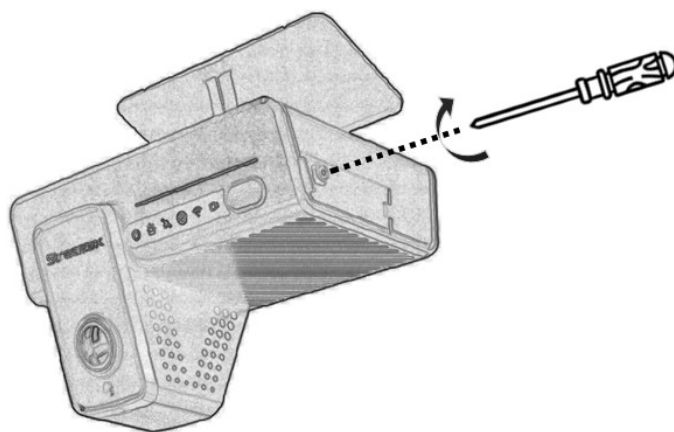
- システム接続模式図に応じて主な線材を接続した後、下図に示すように内張りはがしを使用して配線して下さい。トリムパネルに隠蔽します。

- 電源ボックスにある 3M 接着フィルムをはがし、電源ボックスを車体プラスチックシエルまたは鉄骨フレームにしっかりと貼り付けます。
- ドライブレコーダーの OBD インターフェースを車両の OBD ポートに挿入し、電気供給を完成させます。



3.7. 手順 6:ルーチングおよび電気供給

カードスロットパネルを締め、六角棒スパナを使用してカードスロットパネルのわじを時計回りに締めます。

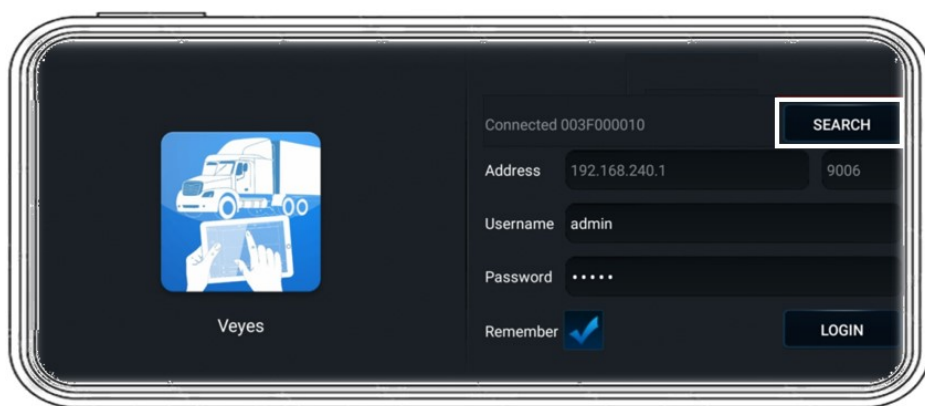


これでデバイスの取り付けが完了します

3.8. 手順 7:アプリの操作および接続

デバイスのソフトウェアバージョンとパラメータ構成は、工場出荷前に顧客の要件に応じてデフォルトで設定されています。このマニュアルでは、接続ステータスのチェックと AI キャリブレーションのみを示します。

- ドライブレコーダーの録画状態表示ランプと通信状態表示ランプが点灯するのを待ち、ランプ(緑)がいずれも点灯すると、ドライブレコーダーが正常に動作することを示します
- 本体が起動してから3分以内に*、または、前方パネルボタンを2回押してAPモードを有効にします。スマートフォン/タブレットを使用して **Veyes** *を開いて「検索」をクリックします



- スマートフォンの設定>WLANをタップし、AD Plus2.0 の WLAN ネットワーク接続を選択します (通常デフォルトは ST-XXXXXXXX)



* ドライブレコーダーは、アプリ接続のデバッグのために、起動から3分以内 Wi-Fi 送信モードを自動的にオンにし、3分以内にアプリが接続されない場合、その Wi-Fi ホットスポットをオフにします

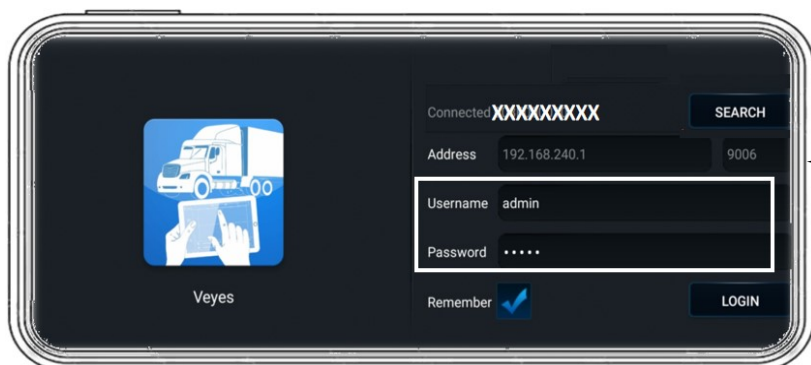
* モバイルアプリのインストール

➤ Android ユーザーの場合、Google Play で Veyes を検索し、ダウンロードしてインストールしてください。

iPhone ユーザーの場合、App Store で Veyes を検索し、ダウンロードしてインストールしてください。

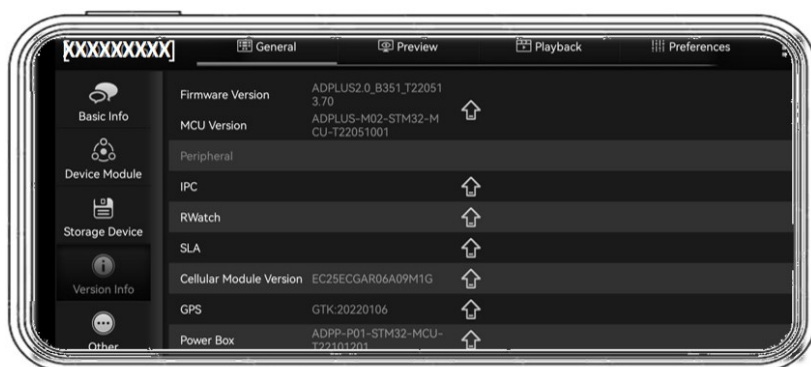
3.9. 手順 8:ダッシュカム検出状態のチェック

- Veyes APP に戻り、ログイン画面に入ってデバイスの接続の状態を確認してます

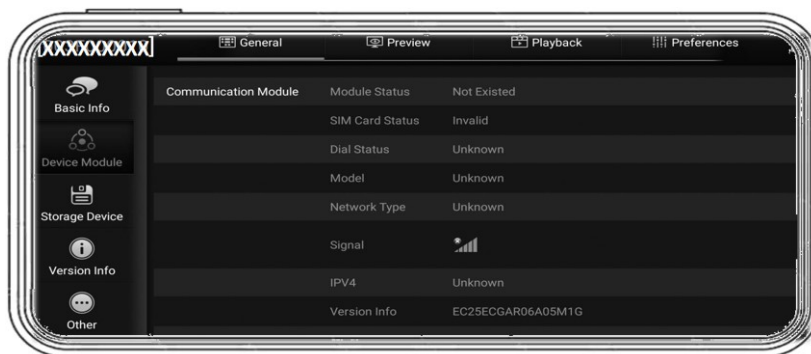


アカウント / パスワード
admin/admin を入力します

- デバイスの状態をチェックできます



画面は状態検出画面に自動的に入り、デバイスのソフトウェアバージョン、3G/4G ネットワーク、TF カードメモリなどに接続されたサーバーの動作状態をチェック



提示

* 検出状態が異常である場合、対応する SIM カードまたはメモリカードが正しく取り付けられるかどうかを確認してください

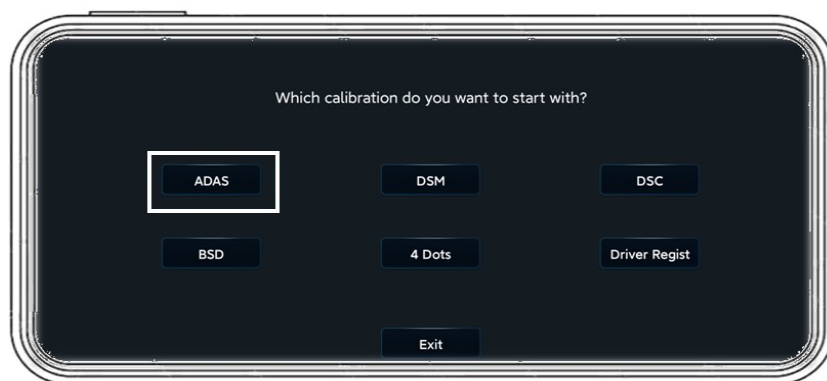
3.10. 手順 9:ADAS レンズのキャリブレーション

プレビュー画面では、デバイスの各チャンネルのリアルタイム録画を表示できます。チャンネルのプレビュー画面をダブルタップすると拡大され、もう一度ダブルタップすると通常の画面に戻ります。カメラが破損しているか接続されていない場合、ビデオロスと表示されます。

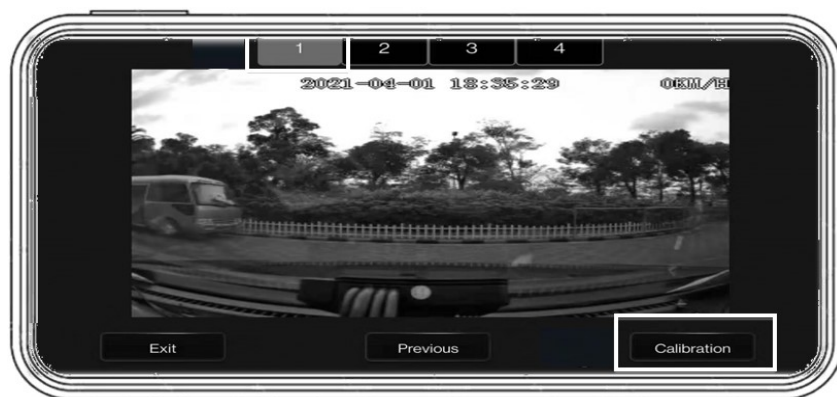
前方カメラの画像が正常であることを確認し、屋外にいる場合は、空と地面ができるだけ視野の半分を占めるようにします。画像の調整が必要な場合は、手順 3.5 に従ってください。以下は ADAS のキャリブレーション手順です。



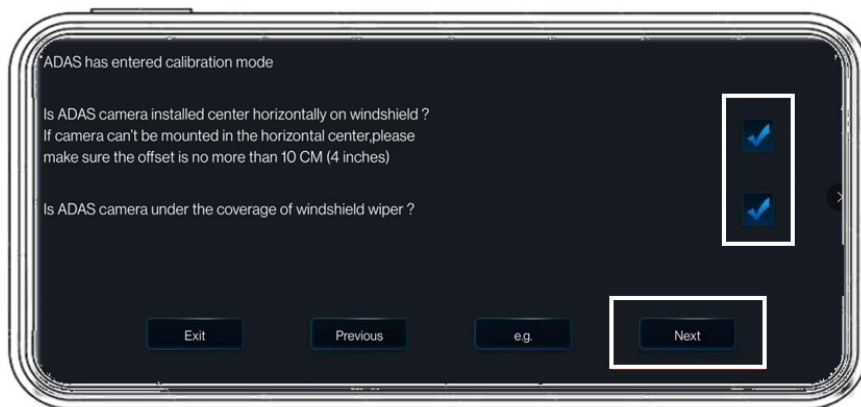
- ① ホーム画面で プレビュー をタップします。プレビュー画面が表示されます
- ② AI キャリブレーション をタップします



- ③ キャリブレーションのために ADAS をタップします



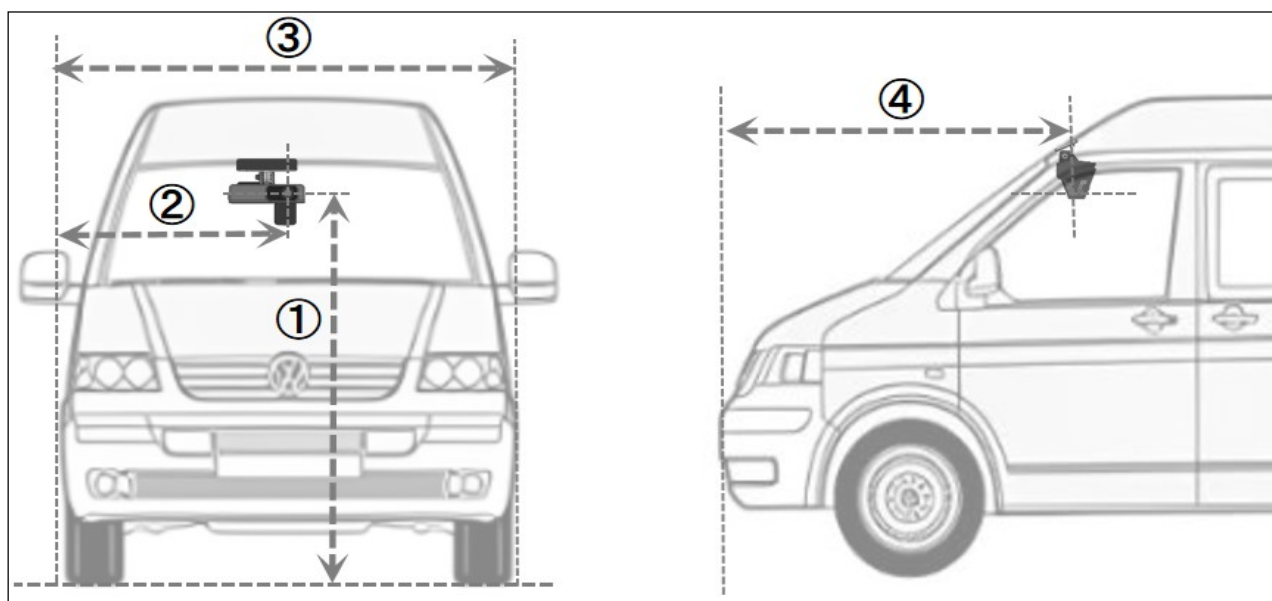
- ④ チャンネル 1 を選択します。
- ⑤ キャリブレーションをタップします



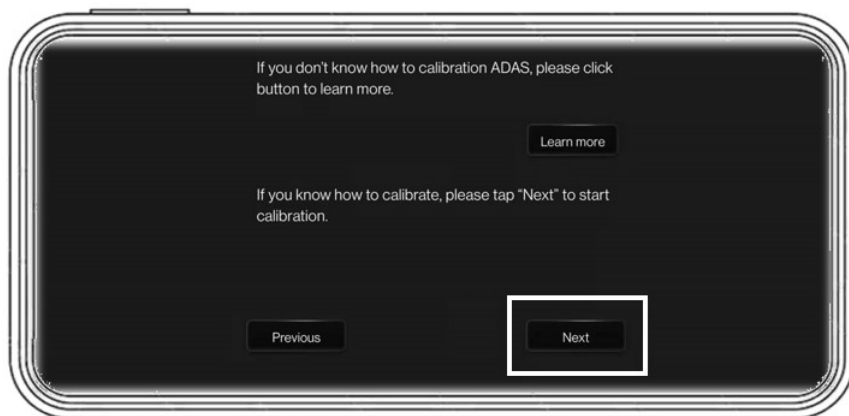
⑥プロンプトを確認—2つのチェックボックスにチェックを入れます。
⑦次へをタップします。



⑧ 前方カメラの垂直高さ、水平距離、前面の幅と長さを入力し、車両モデルに応じた適切な感度を選択し
⑨ 次へをタップします。



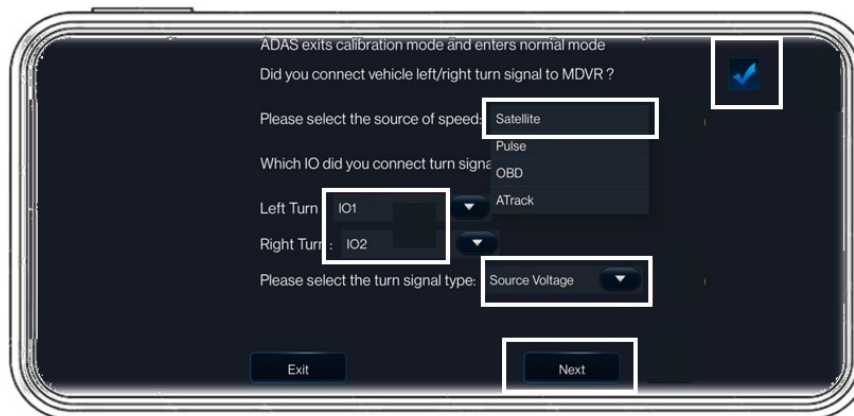
各図の番号の意味	①前方カメラの地面からの垂直高さ;
	②前方カメラから車両の左端のタイヤ外側までの水平距離
	③車両前方両端のタイヤ外側までの水平距離;
	④前面の幅と長さを入力します;



⑩次へをタップします
(ADAS カメラのキャリブレーション方法を学ぶには 詳細を見る をタップします)



⑪次へをタップします。



⑫プロンプトを確認します
⑬速度のソースを選択します
⑭左右のターン信号の必要な IO を選択します
⑮信号ソースの種類を選択選択します
⑯次へをタップします



⑰左右の信号状態を確認した後、完了をタップします



提示

- ADAS カメラのキャリブレーションは、AD Plus2.0 インストールガイドの要件に厳密に従う必要があります。インストールとキャリブレーションに必要なパラメータは慎重に測定する必要があります。
- 左右のターン信号の確認が慎重に行われないと、ADAS は道路情報を正確に検出できず、警報の精度が低下したり、機能が使用できなくなります。
- インストールとキャリブレーションによって引き起こされる異常機能には責任を負いません。

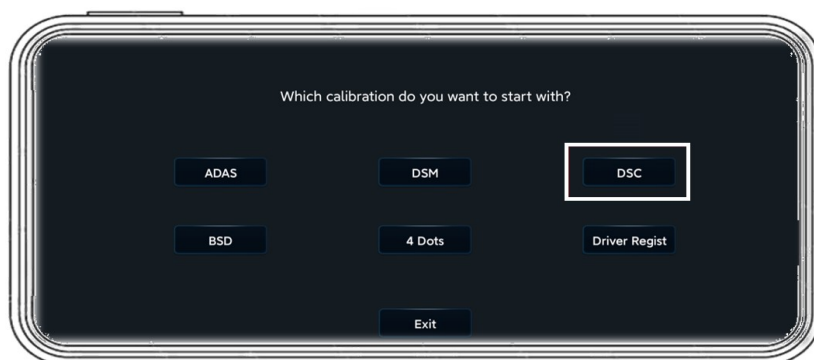
これで ADAS カメラのキャリブレーションが完了します

3.11. 手順 10:運転席カメラのキャリブレーション

ホーム画面のプレビューに戻ります、このステップは上記の ADAS と同じです。



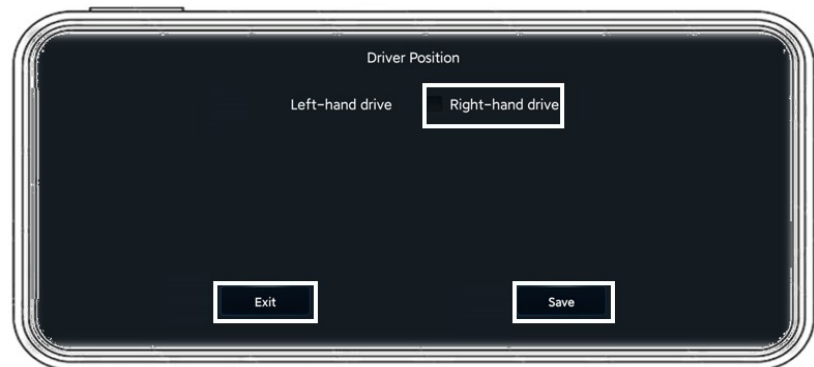
- ①ホーム画面でプレビュー をタップします。
- ②AI キャリブレーション をタップします



- ③DSC をタップしてキャリブレーションを行います。



- ④ チャンネル2を選択します
- ⑤ キャリブレーション をタップします



- ⑥運転席の位置を右舵 *で選択します
- ⑦操作を保存するために保存 をタップします*
- ⑧終了をタップして DSC キャリブレーションを終了します

	➤ * 右舵は運転席に座って正面を向いたときにステアリングホイールがコックピットの右にあることを示し、右ハンドルは右にあることを示します ➤ * 保存をタップしてインターフェースが保存成功を表示したら、DSC キャリブレーションは完了です。
 提示	➤ キャリブレーションプロセスは、左舵および右舵情報の正確性を確保するために慎重に実施する必要があります。さもないと、DSC は運転者を正しく検出して警報を判断できず、警報がトリガーされません。 ➤ インストールとキャリブレーションによって引き起こされる異常には責任を負いません。 ➤ DSC 自動キャリブレーションオプションが追加されており、デフォルトで有効になっています。通常、手動キャリブレーションはオフィスでのキャリブレーションテストに適用されます。

これで運転席カメラのキャリブレーションが完了します

4. ビデオ再生

4.1. ビデオ再生

再生画面で、カレンダーから再生するビデオの日付を選択します。画面の左側で年と月を選択できます。異なる年と月を選択するには、タップ ▲ と ▼ します。カレンダーでは、日付の下の色のストリップがその日にビデオが録画されたことを示します。

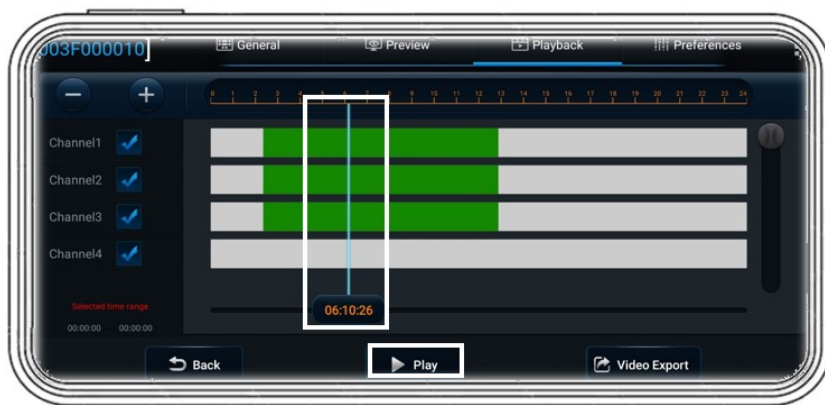


①ビデオ再生タップします
カレンダーでビデオの日付をタップします。表示された画面でチャンネルを選択します。
②次へをタップします。



各色の意味

色なし	その日にビデオが録画されなかった
緑	その日に通常のビデオが録画された
赤	その日にアラームビデオが録画された
黄色	その日にアラームビデオが録画され、自動的にロックされたファイル



③チャンネルを選択した後、タイムラインをドラッグして再生時間を選択し、再生をタップします
* タイムラインを任意の位置にドラッグできます

4.2. ビデオエクスポート

選択した時間帯のビデオをエクスポートすることもできます。



- 再生画面の下部にあるビデオエクスポートをタップし、開始時間と終了時間を選択します。
- バックアップをタップしてビデオをエクスポートします。ロック解除をタップして、選択した時間帯のビデオをロックまたはアンロックします。
- * ビデオエクスポートオプションでは、トリミングしたビデオを外部 USB フラッシュドライブまたは携帯電話にエクスポートすることを選択できます。

5. 基本設定



提示

本製品には多くの機能があるため、本取扱説明書では一般的に使用される機能設定のみを紹介しています。その他のご質問がある場合は、弊社まで直接お問い合わせください。



注: すべてのパラメータ設定画面で、変更されたパラメータを保存するには保存をタップし、画面下部のデフォルトをタップしてその画面のパラメータのデフォルト設定を復元します。

5.1. 登録情報

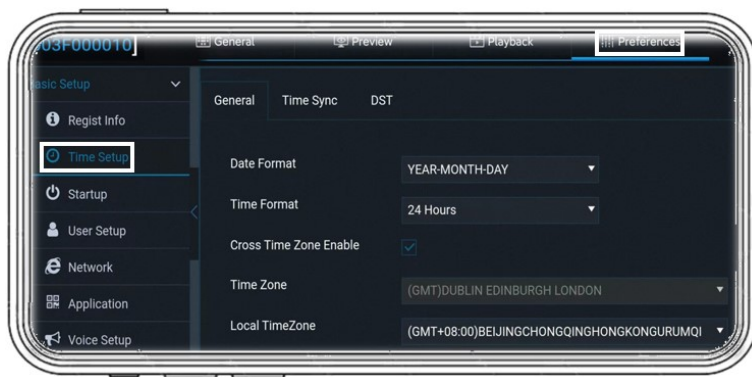
この画面では、デバイス情報（デバイス ID）、車両情報（車両プレート、ライセンスプレート、車両 VIN）、およびドライバー情報（ドライバーナンバーとドライバー名）を設定できます。ここでナンバープレート番号を設定すると、Veyes を使用してデバイスホットスポットに接続するときに Wi-Fi ホットスポットがナンバープレート番号にちなんで名付けられます。



注: ナンバープレート番号が変更されると Wi-Fi ホットスポットの名前も変更されるため、再接続および再ログインが必要です。

5.2. 時間の設定

この画面では、時間表示形式と所在するタイムゾーンを設定できます。システム時間と実際の時間にずれがある場合、時間は自動的に同期されます。自動時間同期設定では、日付と時間を手動で入力するか、時間同期方法を設定できます。



車両がプラットフォームがあるタイムゾーンにいない場合、デバイスとプラットフォーム間の正常な通信のためにクロスタイムゾーンソリューションを有効にする必要があります

5.3. デバイスのオン／オフ、スリープの設定

この画面では、デバイスのオン／オフモードの方法、スリープ、ウェイクアップ、電源ボックスなどを設置できます。特別な要件がない場合は、デフォルト設定に従ってください。



提示

- 車両が停止し、電源がオフになった後でもプラットフォームが車両の位置情報を取得し、データダウンロードやビデオ再生のためにリモートでデバイスを起動する必要がある場合は、低消費電力スタンバイモード（スリープ）を選択します。そうでない場合は、ゼロ消費電力スタンバイを選択してください。
- 低電圧保護が有効になっていない場合、デフォルトの低電圧保護の条件は 7V です。
- SMS および電話のウェイクアップには、デバイス内の SIM カードが SMS および電話サービスをサポートしている必要があります。
- G センサーのウェイクアップでは、一部の車両の振動が小さすぎて車両の始動後にデバイスが起動することがあり、アイドリングストップ中にデバイスがシャットダウンすることがあります

5.4. ユーザーの設定

ユーザー設定画面では、言語、MP3 音声オプション、およびログインユーザーアカウント情報を設定できます。ユーザーを追加し、新しいユーザーのパスワードを設定できます。☰をタップ: ユーザーのログインパスワードを設定します。



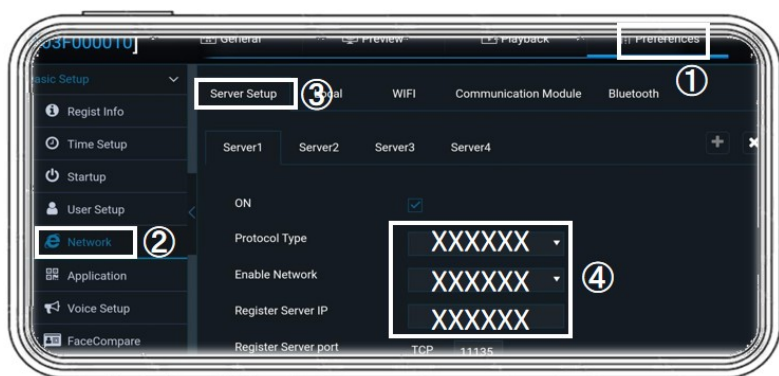
提示

言語オプションおよびMP3 音声オプションには、中国語、英語、ラテンアメリカのポルトガル語、ラテンアメリカのスペイン語、フランス語、ロシア語、日本語の7つの言語が含まれます。

5.5. ネットワークの設定

この画面では、サーバー、ローカル、WIFI、通信モジュール、Bluetooth、ポートを設定できます。以下は、一般的に使用される機能の説明であります。

- **サーバーの設定:** サーバーは工場出荷前に顧客の要件に応じてデフォルトで設定されています。特別な要件がない場合は、デフォルト設定に従ってください。



提示

TLS 暗号化はスリープ状態ではサポートされていません

- **WIFI の設定:** Wi-Fi 接続モードを指定します。オプション: AP, クライアント, 無効。デフォルト: 無効。

AP:モードでは、Wi-Fi 名は車両のナンバープレート番号に自動的に関連付けられます。この画面では変更できず、パスワードも設定できません。さらに、デバイスは起動中および起動後もホットス

ポット状態を維持します。

クライアントでは、クライアント:クライアントモードを選択し、近くで利用可能な Wi-Fi ネットワークで ESSID とパスワードを入力すると、デバイスは自動的に利用可能な近くの Wi-Fi ホットスポットを調査し、接続成功後にプラットフォームに報告することができます。

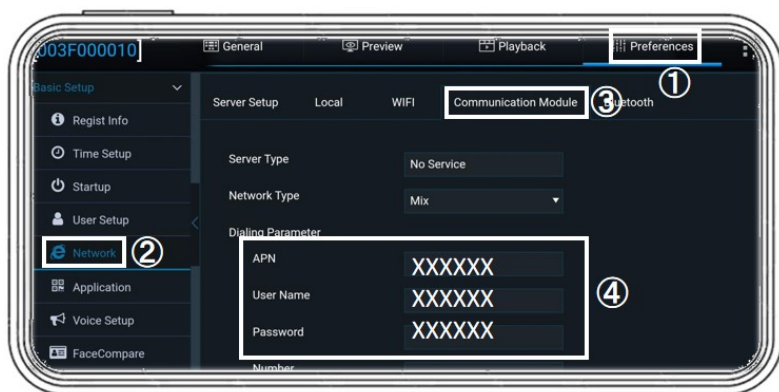


提示

本機には AP モード
切替ボタンがあり、
AP モードに切り替え
ることができます。

無効では、Wi-Fi ネットワークは有効化されず、クライアントモードは失敗する。デフォルトでは、デバイスは起動後 3 分以内に AP モードを使用します。

- **通信モジュール設定:** SIM カードをデバイスに挿入した後、モジュールタイプが自動的に監視され表示されます。モジュールがない場合はサービス無しと表示されます。SIM カードメーカーから提供されたパラメータを入力します。



提示

通信モジュールは
2G / 3G / 4G をサポ
ートします

5.6. 音声設定

デバイスの音量 (MP3 放送音量を含む) および TTS 音声を手動で構成します。



提示

範囲は 0 から 63 で、
デフォルトは 55 です

5.7. ビデオ設定

この画面では、プレビュー、録画設定、IPC 設定、カメラ設定を設置できます。

➤ プレビュー設定画面は、外部ディスプレイでの表示形式を設定するためのもので、シングルスクリーン表示および 4 スクリーン表示をサポートします。

➤ 録画設定

① 一般設定: このモジュールにはシステムモード選択、上書き機能、ロック期間設定、プリレコーディング、TF 録画モードが含まれます。



提示

保護時間が過ぎた後、または手動で解除された後のみ、ロックされた録画を上書きしたり削除したりすることができます



提示

- 外部カメラがある場合、PAL または NTSC に設定できます。
- システム設定はビデオソース (カメラシステム) と一致している必要があります。そうでない場合、デバイスはカメラを識別できません。

- ② **メインストリーム設定**: 各チャンネルの録画モード、録画パラメータ、およびオーディオパラメータを設定します。一度録画モードを選択すると、サブストリーム録画とミラーリング録画の両方に適用されます。デジタルカメラが接続されている場合、720Pまたは1080Pに設定できます。アナログカメラが接続されている場合、CIF/WCIF/HD1/WH1/D1/WD1/720P/960P/1080P に設定できます。



提示

AD Plus2.0 の ADAS チャンネル(チャンネル 1) は最大 1920P まで測定可能。

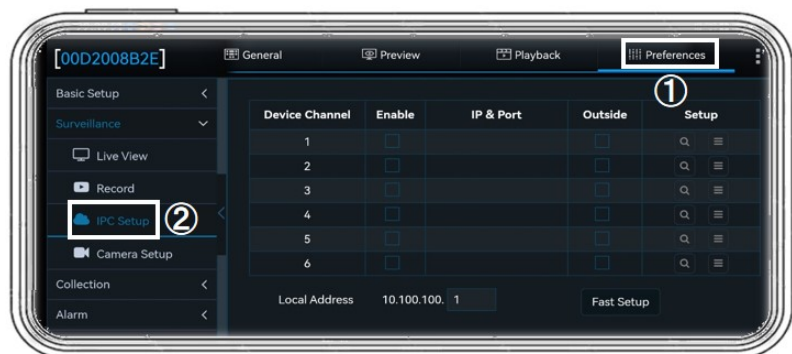
- ③ **サブストリーム設定**: この画面では、各チャンネルのサブストリームビデオおよびオーディオ録音パラメータを設定できます。



提示

メインストリームが無効の場合、全体のビデオ入力が無効になります

- **IPC 設定**: この画面は、外部 AI 外部機器が接続されている場合に設定されます。チャンネル外の IPC を有効化し、IPC を検索してチャンネルを割り当て、IPC の IP アドレスを変更できます



提示

プレビューインターフェースには IPC チャンネルのみがチャンネル位置を変更できます

- **カメラ設定:** この画面は、外部カメラが接続されている場合に設定されます。すべてのチャンネルの外部カメラを反転、ミラーリング、回転できます。



提示

ダッシュカメラのデフォルト画面角度を変更したり、画像を任意に反転しないでください。

5.8. アラーム設定

- **基本アラーム:** 基本画面では、IO アラーム、速度アラーム、パネルアラーム、GPS アラームを設定できます。
 - ① **IO アラーム:** 従来の電源ボックスを使用し、3つのIO入力をサポートしています。センサーの目的を設定します。左折、右折、ブレーキ、プライバシーが選択可能。センサーのトリガーは高、低、またはパルスに設定できます、デフォルトは高です。



提示

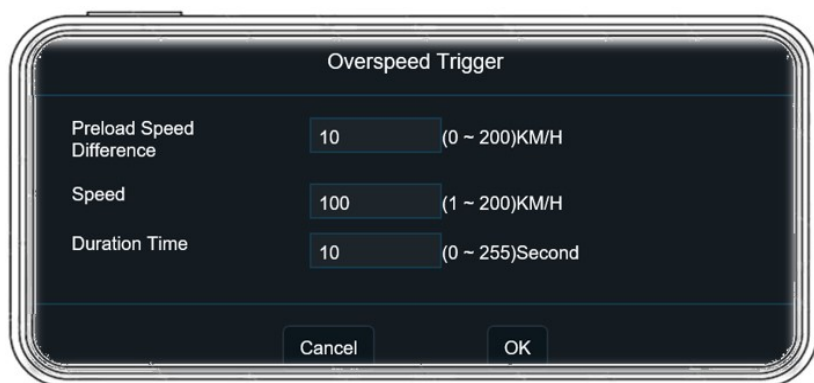
IOポートで検出可能な電圧は0-36Vです。3.5V未満は低、3.5V以上は高です。



警告

検出可能範囲内で使用してください。Streamaxは検出範囲を超えた場合のデバイスの損傷について責任を負いません。

- ② **速度アラーム**:速度超過アラーム機能を有効にし、アラームタイプをアラームまたはイベントに設定できます。オーバースピードトリガー 画面で、事前警告速度差を指定します。車速と制限速度の差がこのパラメータの値より小さい場合、警告が発生します。車速が制限速度を超えると速度超過アラームが発生します。



提示

事前警告のアラームと
速度超過アラームの音
声は異なります。

- **ビデオアラーム**:この画面では、ビデオロスアラーム、カメラ遮蔽アラーム、プライバシーモードを設定できます。

- ① **カメラ遮蔽**: カバー画面でカメラ遮蔽アラームのパラメータを設定できます。ADAS チャンネルのカメラ遮蔽アラームは、車速が 10 km/h を超え、遮蔽の持続時間が 15 秒(デフォルト値は、アルゴリズムのアップグレードによって変更される場合があります。)を超えた場合にトリガーされます。DSC チャンネルの遮蔽アラームは、持続時間が 6 秒を超え、カバーアラーム画面で設定された速度を超えるとトリガーされます。



提示

DMS の遮蔽アラーム
は、持続時間が 5 秒を
超え、アラーム画面で
設定された速度を超え
るとトリガーされます

- ② **プライバシーモード**:プライバシーモードのトリガーおよび解除モードをプライバシーモード設定画面で設定できます。プライバシーモードのトリガーモード:IO または ACC のどちらかを選択できます。プライバシーモードの解除方法:速度または IO のどちらかを選択しなければなりません。



提示

プライバシーモードの
オン・オフを音で知らせ
ることができます

- **高度なアラーム** : この画面では、G センサーアラームおよびジオフェンスアラームのパラメータを設定できます。ハードブレーキ、急加速、急左折、急右折によってドライバー行動アラームを検出できます、G センサーを使用して衝突が発生したかどうかを判断します。



提示

設置されたモデルに応
じて構成を調整するこ
とをお勧めします

- **AI アラーム** : AI アラームには以下のものが含まれます。

アラーム	種類
ADAS アラーム	LDW、FCW、HMW、PCW
DSC アラーム	手持ちデバイス使用、シートベルト未装着、ドライバーなし、喫煙、気を散らす、あくびが含まれます
DMS アラーム(オプション)	ドライバー疲労、ドライバーなし、手持ちデバイス使用、喫煙、気を散らす、あくび、シートベルトが含まれます



AI アラームが発生した際、設備はアラーム状態表示ランプで通知するだけでなく音声ブロードキャストまたは追加の付属品「R-Watch」を介してアラームが出ます(オン/オフを自由に設定できます)。

すべての AI アラームのパラメーター設定は同じロジックに従います。各アラームのトリガー条件には、速度範囲、感度、有効時間(この時間範囲内で複数のアラームがトリガーされた場合、1つのアラームとして記録)、継続時間(アラームが持続する時間)などが含まれます。ただし、アラームの種類によって設定可能なパラメーターに若干の違いがあります。ここでは HMW アラームとわき見のパラメーターの設定方法を例に説明します。

HMW アラーム

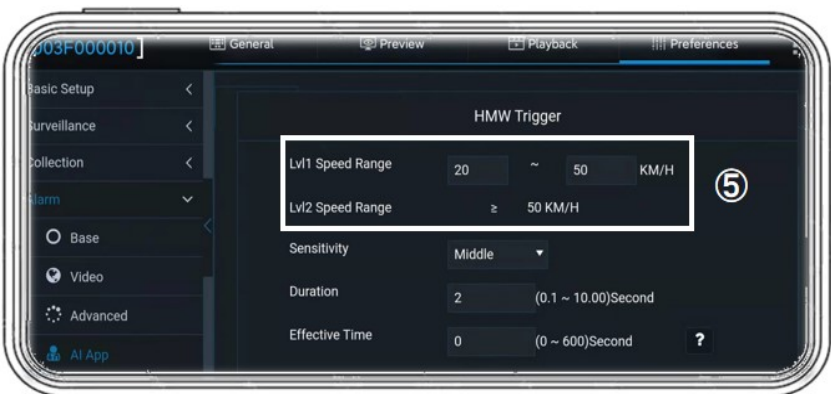


- HMW の有効をオンにします
- アラームタイプ: アラームまたはイベントを選択します。



提示

イベントを選択すると、生成されたアラームはプラットフォームに報告されません

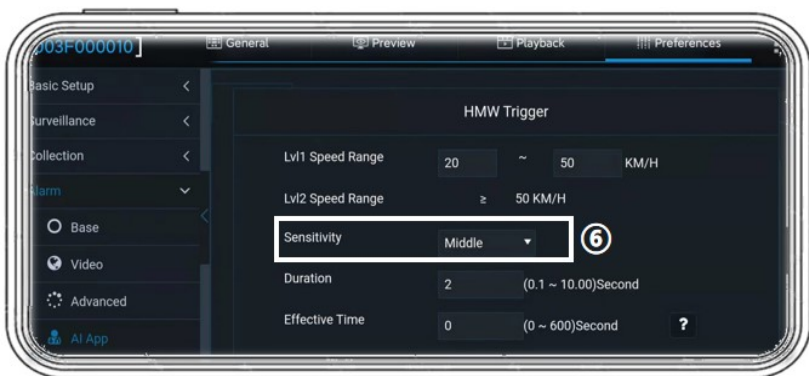


- レベル1アラームの速度範囲を指定します。
- レベル2アラームの速度範囲を指定します。このパラメーターの下限はレベル1アラームの上限に依存します。



提示

- レベル1アラームがトリガーされると、MDVRからMP3音声で通知されます
- レベル2アラームが生成されると、MDVRはビープ音のみを発します



- アラームがトリガーされる感度を指定します。選択可能な値は低、中、高、およびカスタムです。デフォルトは中です



提示

ADAS オープンアラームでは、感度は HMW に対してのみ設定可能です。値範囲は 0.6 から 4 (時間は相対距離を車両速度で割ったもので、自然時間ではありません)



- 継続時間: HMW の継続時間を指し、この時間が経過するまでアラームは生成されません
- 有効時間: 再度報告される時間範囲です。この期間内に生成されたアラームは同一と見なされます



提示

- LDW アラームと HMW アラームを比較すると、設定画面には継続時間がなく、FCW アラームと HMW アラームを比較すると、設定画面には感度と継続時間がなく、他の設定パラメータは同じです。したがって、ここでの説明は省略します。

これで HMW アラームのパラメーターの設定が完了します

わき見

わき見アラームのトリガー条件は、わき見アラームにパラメータがあることを除き、他のアラームのトリガー条件と同様です：判定およびわき見レベルパラメータがあります。これらのパラメータを設定することで、わき見アラームシナリオをより正確に制御できます。

Distraction Trigger

Lvl1 Speed Range 30 ~ 50 KM/H

Lvl2 Speed Range ≥ 50 KM/H

Sensitivity User-Defined ▾

Judgement L+R+Up+Down ▾

L+R 5 (0 ~ 60)Seconds

Up+Down 3 (0 ~ 60)Seconds

Level of distraction Medium ▾

Effective Time 0 (0 ~ 600)Seconds ?

Cancel OK

判断: ドライバーが左/右を見たり下を見たりする場合に気を散らす可能性があります。異なる状況に対して異なる感度しきい値があります
わき見レベル: 運転中に後方確認するために左右を向くのは正常な行為です。このような誤警報を避けるため、気を散らすレベル パラメータを設定できます。軽度、中度、重度の設定が可能です



提示

軽度はドライバーがわずかに振り返ったときにアラームがトリガーされ、重度はドライバーが大きく振り返ったときにアラームがトリガーされます。



警告

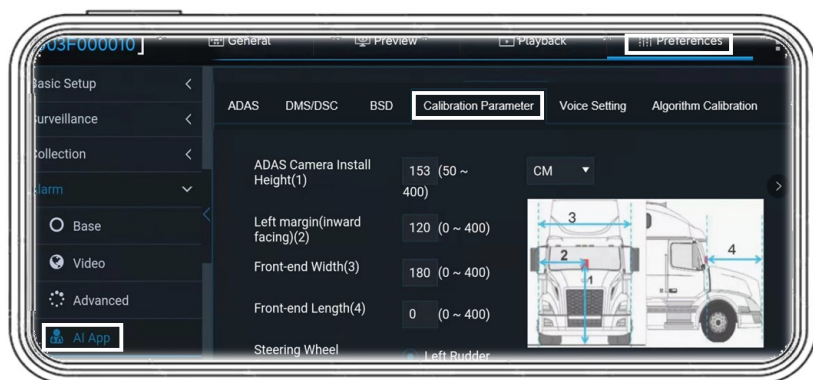
➤ AI アラームの精度は、標準的なインストールに依存します。また、車線逸脱警報は、運転者が運転中にしばしば標識を横切るため、多く発生する可能性があります。

➤ シートベルトアラームは、衣服の色、故意にシートベルトを塞ぐなどの理由で作動することが多い。シートベルト検知については、ローカルリマインダーは無効とし、画像アップロードを設定する。

➤ アラームの適用に関しては、車線逸脱アラームにはローカルリマインダーとビデオアップロード機能を使用しないことが推奨され、アラームの数はドライバーが交通ルールを守るためのデータ評価次元に過ぎない。

キャリブレーションのパラメーター

AI アラームのアルゴリズムパラメータ設定画面では、ADAS レンズの取り付け高さ、左余白、前端幅と長さ、左右の舵を変更したり、AI アラームの音声、R-Watch（接続されている場合）、および音声と視覚アラーム B1（B1 が接続されている場合）を有効または無効にすることができます。



ADAS キャリブレーション値はセンチメートルまたはインチで設定できます。単位を選択すると、値の範囲が自動的に変更されます。



また、DSC 自動キャリブレーションオプションが追加されており、デフォルトで有効になっています。有効にチェックを入れると、手動キャリブレーションを行わなくても、通常の使用中にデバイスが自動的にキャリブレーションプロセスを完了します。



提示

通常の取り付け位置の場合、DSC は推進用の自動キャリブレーションを使用しています。通常、手動キャリブレーションはオフィスでのキャリブレーションテストに適用されます。

音声制御

音声制御画面では、AI アラーム 音声、R-Watch 音声、および音声と視覚アラーム B1/B2 音声のスイッチを一括して制御できます。音声制御のメインスイッチが有効になっている場合、各アラームのサブスイッチをオンにする必要があります（音声と視覚アラーム B1/B2 には適用されません）前に、音声プロンプトが放送されます。

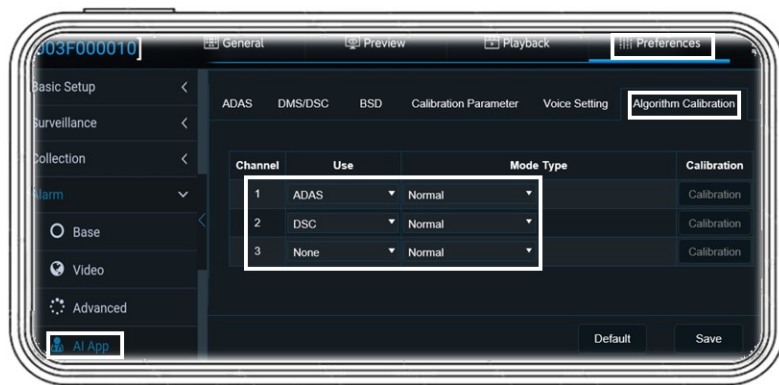
Name	R-Watch Voice	MP3 Voice
Driver Fatigue	☐	☒
Handheld Devices	☐	☒
Distraction	☐	☐
FCW	☐	☒
Yawn	☐	☐
Seatbelt	☒	☒
Right blind spot detection	☐	☐
No Driver	☐	☐
Smoking	☐	☐
LDW	☐	☒
HMW	☐	☒
PCW	☐	☒
No Mask	☐	☐
Infrared block alarm	☐	☐

メインスイッチが無効になっている場合、各アラームのサブスイッチをオンにしても音声プロンプトは放送されません

- **AI アラーム 音声有効:** MP3 アラーム 音声を有効または無効にします。このオプションが選択されると、アラームがトリガーされると、ダッシュカムが MP3 アラーム 音声を再生します。
- **R-Watch 有効:** R-Watch 音声を有効または無効にします。このオプションが選択されると、R-Watch が接続されている場合、R-Watch がビープアラーム音を再生し、アイコンを表示します。
- **B1/B2 放送有効:** 音声と視覚アラームの音声制御を有効または無効にします。デバイスが BTF カメラと音声と視覚アラームに接続されている場合、BTF アラームがトリガーされると、音声と視覚アラームが音声とフラッシュプロンプトを提供します。

アルゴリズムのキャリブレーション

AI アラームのアルゴリズム・キャリブレーション画面で、カメラ・チャンネルで使用するアルゴリズムを設定します。



外部 DMS カメラ (C29N) と接続され、4 チャンネルアルゴリズムを DMS に設定し、2 チャンネルアルゴリズムを「なし」に設定します

- 前方カメラ: 高度な運転支援には 1 チャンネルアルゴリズムを ADAS に設定し、モードタイプを「ノーマルモード」に設定します。
- DSC カメラ: インテリジェントコックピットには 2 チャンネルアルゴリズムを DSC に設定し、モードタイプを「ノーマルモード」に設定します。



提示

現在の状態では、2 つの AI アルゴリズムの同時操作 (ADAS+DSC または ADAS+DMS) だけがサポートされています。3 つのアルゴリズムの同時操作はサポートされていません。

特別な機能の操作説明

プライバシー保護機能

ドライバーのプライバシー保護を重視し、デバイスが駐車中にリモートプレビューと録画を無効にするプライバシーモード機能を特別に設計しました。プライバシーモード機能:ドライバーが駐車すると、対応するチャンネルの録画を手動で無効にすることができます。デバイスはさまざまなトリガーモード、自動退出、無効にする録画チャンネルの柔軟な構成をサポートし、ドライバーの操作を容易にするためにプライバシーモード用の独立したパネルボタンが設計されています。

➤ 関連設定

下図に示すように、ビデオアラームのプライバシーモードを参照してください。



- ① プライバシーモード画面で「有効」をタップします
- ② プライバシーモードがトリガーされたときに閉じるチャンネルを選択します
- ③ 速度をタップして退出方法を設定し、速度を 5 km/h に設定します
- ④ アラーム音声有効をタップします
- ⑤ 設定パラメータを保存します

➤ 使用方法

- 駐車
- パネルボタンを2秒間押し続け、ボタンを離すと「プライバシーモードのオンまたはオフします」の音声流れます。
- この時、プライバシーチャンネルが閉じられ、ドライバーのプライバシーが保護されます。
- 車両の始動速度が設定値を超えると、プライバシーモードが自動的に解除され、「プライ

バシーモード無効」の音声が流れます。

- プライバシーモードを手動で解除するには、パネルボタンを2秒間押し続け、ボタンを離すと「プライバシーモード無効」の音声が流れます。
- その他の方法については、ビデオアラームのプライバシーモードを参照してください。

故障かなと思ったら

一般的な製品の問題解決方法の紹介します

番号	類型	問題のシナリオ	解決方法
1	画面に Device Not Enabled と表示されます		メインストリームとサブストリームに対応するチャンネルイネーブルスイッチがオンになっているかどうかを確認し、異なるメモリに対して対応するチャンネルイネーブルスイッチが正常に動作するかどうかを確認します
2	黒画面表示		このチャンネルでプライバシーモードが有効になっていることを確認。
3	デバイスがプラットフォームに接続できません	 赤ランプ常時点灯	1. サーバー関連の設定とイネーブルスイッチがオンになっているか確認します 2. SIM カードの状態を確認します ➢ カードが認識されず、正常にダイヤルできない場合は、通信関連の設定を確認してください ➢ カードが認識できない場合、SIM カードの状態を確認します 3. 通信モジュールの状態が正常であることを確認します
4	無効なデバイスの位置決め	 赤ランプ常時点灯	1. 使用する GPS のバージョンを確認します 2. 測位モジュールのステータスが正常であることを確認します

5	デバイスの電源が入らない	配線後、装置の電源が入らない	1. 電線の接続状態は正常か、ヒューズは完全に挿入されているか。 2. 電源電圧が条件を満たしているか確認します。 3. システムで設計した電源ロジックにより、OBD から電源を供給する場合、車両移動時(G センサー加速度変動>10mg)に電源を供給する必要があるため、車両装着時に電源が正常であれば、電源ボックスを少し揺すってください。
6	電源オン時にSIMカードがない	デバイスの電源を入れてもSIMカードが認識されない	➤ SIMカードを取り出し、SIMカードの物理的な状態を確認します。 ➤ Veyes に入り、通信モジュールの状態を確認します。
7	電源を入れてもデバイスがネットワークに接続されていません	---	1. デバイスの電源を入れる前に SIM カードが挿入されているかどうか確認してください。デバイスの電源を入れた後に挿入されている場合は、デバイスの電源を切って再起動してください。 2. SIM カードが正しくインストールされているか確認してください。 3. 現在地でネットワーク信号が良好かどうか確認してください。 4. SIM カードに通信量があるか確認してください。
8	デバイスの電源を入れてもビデオ録画ができません	---	1. デバイスの電源が入る前に SD カードが挿入されていることを確認してください。デバイスの電源が入った後に挿入された場合は、デバイスの電源を切って再起動してください。 2. SD カードが正しくインストールされているか確認してください。 3. SD カードがデバイスに挿入された後、使用する前にまずフォーマットしてください。
9	デバイスの電源を入れても新しい録画がありません	---	1. 録画モードが上書きしない設定になっているか確認する。 2. 録画ロックの有無と関連設定(保持日数)の確認 3. チャンネルイネーブルスイッチとパワーオン録画モード(パワーオン/アラ

			ーム)の確認
10	デバイスが音を再生できません	---	1. ボリューム設定の確認 2. IP インカムによるアンプ状態の確認、その他アラームトリガーの確認
11	音声なしのビデオ再生	---	1. まず、カメラが音声入力をサポートしているかどうかを確認します 2. (メイン、サブマストリーム)ビデオ録画に従って、関連する設定インターフェースに入り、設定(録画/非録画)を確認します
12	AI アラームが作動しません	---	1. 対応するアラームイネーブルスイッチと設定を確認します 2. 対応するチャンネルの使用方法が正しいイネーブルアルゴリズムであるか確認します 3. 校正状態が正常であるか確認します
13	G センサーアラーム	G センサーアラーム異常(トリガーできない、精度不良)	1. 関連アラームが有効かどうか 2. 自動学習などを経ているかどうか 3. 関連する係数が正常に設定されているかどうか
14	デバイスがスリープ状態になり、スリープ解除できません	---	1. 低電力モードに設定されているか確認します 2. 関連するウェイクアップモードが正常に有効になっているか確認します
15	WI-FI が作動しない	電源を入れても WI-FI が利用できません	1. デバイスに WI-FI モジュールが付属しているか確認します 2. 現在 AP モードになっているかどうか 3. 再起動、電源投入後、一定時間 AP モードで正常に接続できるかどうか 4. O&M に接続し、デバイスモジュールが正常かどうかを確認します
16	装置時間異常	デバイスの時刻を実際の時刻に合わせることはできない	1. クロスタイムゾーン方式が正しく設定されていることを確認します 2. タイムアライメントが有効になっていることを確認します

製品仕様

1. AD Plus 2.0 仕様

システム	組み込み Linux
言語	オプション: 中国語、英語、スペイン語(ラテンアメリカ)、ポルトガル語(ラテンアメリカ)、フランス語、ロシア語、日本語。デフォルト: 英語。
ビデオ/オーディオ	
ビデオ/オーディオ録画	4 チャンネルビデオ(デフォルト: 2 チャンネル; 拡張: 2 チャンネル)+ 1 チャンネルオーディオ
最大容量(2 チャンネル AI 含む)	1920P@25fps (ADAS) +1080P@25fps (DSC) +1080P@25fps (AHD) +800P@20fps(DMS) 推 奨 構 成 : 1920P@20fps+1080P@15fps+1080P@20fps (AHD) +800P@20fps(IPC)
イメージ設定	明るさ、クロマ、コントラスト、色の鮮やかさ、シャープネスの調整が可能
ビデオコーディング	オプション: H.264 および H.265。デフォルト: H.265
オーディオ圧縮標準	オプション: ADPCM、G.711、G.726。デフォルト: ADPCM
CBR/VBR	オプション: VBR および CBR。デフォルト: VBR
オーディオ	内蔵マイク
スピーカー	内蔵スピーカー、電力: 3W、調整可能な音量、1m 距離で 70dB 以上
前方レンズのパラメータ	
センサータイプ	1/2.7" 5 メガピクセル CMOS センサー
シャッタースピード	1/30s~1/100000s
レンズ	焦点距離: 2.8mm、HFOV: 123°、VFOV: 65°、DFOV: 140°、偏差: ±5°

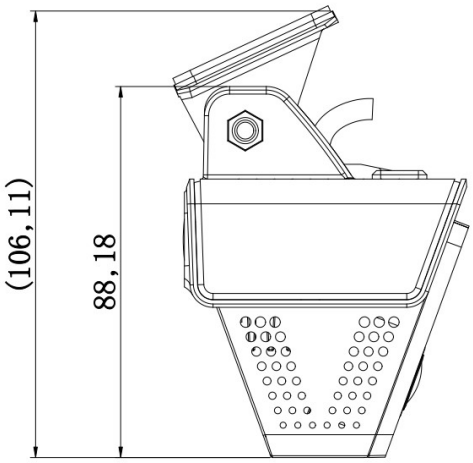
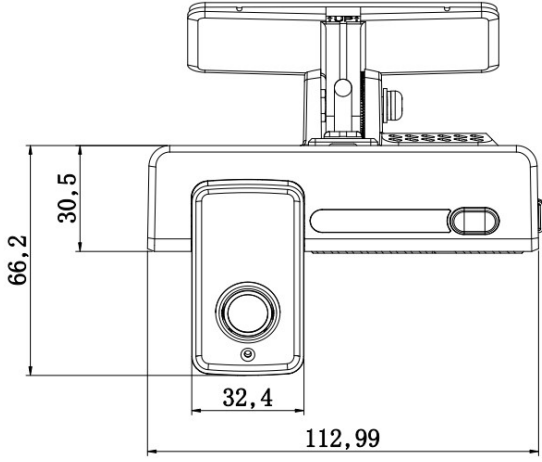
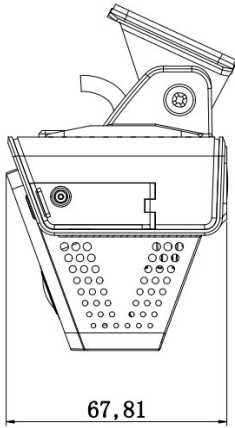
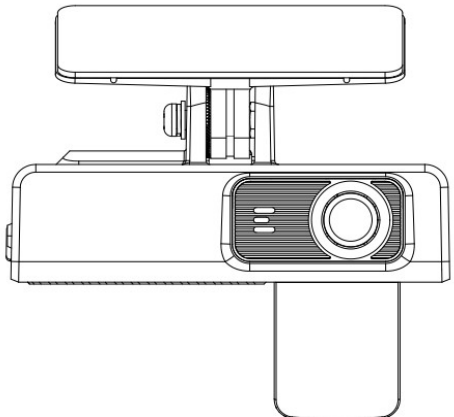
最低照度	カラー: 0.05 Lux/F1.2
レンズマウント	内蔵レンズ
ワイドダイナミックレンジ (WDR)	デジタル WDR
逆光補正	対応
信号対雑音比(S/N)	≥48dB
ドライバー向けレンズのパラメータ	
センサータイプ	1/2.9" 2 メガピクセル CMOS センサー
シャッタースピード	1/30s~1/100000s
レンズ	焦点距離: 2.2 mm HFOV: 151° ; VFOV: 84° ; DFOV: 170° ; Deviation: ±5°
レンズマウント	内蔵レンズ
ワイドダイナミックレンジ (WDR)	デジタル WDR
逆光補正	対応
信号対雑音比(S/N)	≥45db
赤外線ランプ	対応。内蔵環境光センサーが自動的にランプのオン/オフを切り替え。 * 閾値: 昼間から夜間: 4 Lux、夜間から昼間: 8 Lux。デバイスごとに若干の誤差があります。実際の測定値を参照してください。
ストレージ	
Micro TF カード	Micro TF カード × 2, (TFXC 32GB/64GB/128GB/256GB) 読み書き速度: Class10 以上を推奨
センサー	
6 軸センサー	急加速、急減速、急旋回、事故検知

環境光センサー	対応。コックピットカメラの昼夜切り替えに使用
ポート	
RS232	1-チャンネル
I/O ポート	3-チャンネル入力
CAN	1-チャンネル(標準 J1939 プロトコル) 自動車メーカーによりカスタマイズされたデータフィールドがある場合、最終的な測定データが優先されます。必要なデータがサポートされない場合、特定のプロトコルに基づく統合開発が可能です。
USB	1 × ミニ USB ポート
ボタン	Wi-Fi を AP モードに切り替えるには、2 秒以内にボタンを 2 回押します。 * その他のボタンの詳細については、製品のユーザーマニュアルを参照してください。
ネットワーク	
Wi-Fi	対応、2.4G (IEEE Std.802.11a/IEEE Std.802.11b/IEEE Std.802.11g/IEEE Std.802.11n)をサポート
4G	SIM カード(Nano SIM カード)を挿入 ● 北米向け: LTE FDD: B2/B4/B5/B12/B13/B14/B66/B71 WCDMA: B2/B4/B5 ● ヨーロッパおよびアジア向け: LTE FDD: B1/B3/B7/B8/B20/B28A WCDMA: B1/B8 GSM: B3/B8 ● ラテンアメリカ向け: LTE FDD: B1/B2/B3/B4/B5/B7/B8/B28 LTE TDD: B40 WCDMA: B1/B2/B5/B8 GSM: B2/B3/B5/B8 警告:産業用 SIM カード(MP2)が必要であり、通常の SIM カード(MP1)の使用は禁止されています。一般的な SIM カードを使用したことによるいかなる問題についても、当社は責任を負いません。

ポジショニング	
GNSS	対応。 GPS L1 1575.42MHz GALILEO E1B/C1 GLONASS L1OF 1602MHz SBAS: WAAS, EGNOS, MSAS, GAGAN
電源関連	
電源供給	12V および 24V 車両に対応 (自動適応)
消費電力	● スタンバイモード: 13.5V@5.67mA、27V@3.39mA ● スリープモード (4G および MCU が動作中): 13.5V@62~124mA, 27V@32~61mA ● 典型的な消費電力 (デュアル TF カードとダイヤリング用の SIM カードを装着時): 約 7.56W ● フルロード消費電力 (デュアル TF カード、ダイヤリング用 SIM カード、Wi-Fi オン、IPC と AHD 接続、赤外線ランプオン): 約 12.66W * 上記データは特定の実験環境で得られた試験データであり、個々の製品の違いやサービス環境、試験方法によって異なる場合があります。
環境	
動作温度	-40° C ~ +70° C (-40° F ~ +158° F)
保管温度	-40° C ~ +85° C (-40° F ~ +185° F)
動作湿度	15~95% 非結露
保管湿度	15~95% 非結露
IP 等級	IP30 * ダッシュカムは防水ではありません。
寸法と重量	
寸法 L×W×H	ダッシュカム: 115.0 mm × 67.8 mm × 88.2 mm (ブラケットを除く); 偏差: ±2 mm; パッケージ: 176 mm × 150 mm × 114 mm; 偏差: ±3 mm;

重量	正味重量(デバイスのみ): 295g 総重量(付属品およびパッケージを含む): 745g 偏差: ±10g
* 実際の寸法と重量は、個々の製品の違いや製造プロセス、試験方法によって異なる場合があります。	
パッケージ構成	
AD Plus2.0 ×1、電源供給ボックス ×1、標準電源ケーブル ×1、アレンキー ×1、マウントブラケット ×1、ブラケットボルト ×1、てこ ×1、乾燥剤 ×1、アルコール綿 ×1	
* 構成は地域によって異なる場合があります	

2. 寸法図

 Left side view of the device. The drawing shows a vertical profile with a hinged lid at the top. Two vertical dimension lines are present: the outer one is labeled (106, 11) and the inner one is labeled 88, 18. The bottom of the device features a series of small circular holes arranged in a V-shape.	 Front view of the device. The drawing shows the front face with a central circular lens or sensor. Above it is a rectangular display or indicator. To the right is a horizontal handle or button. Four dimension lines are shown: a vertical line on the left labeled 66, 2, a vertical line between the display and handle labeled 30, 5, a horizontal line across the lens area labeled 32, 4, and a horizontal line across the bottom labeled 112, 99.
左側面図	前面図
 Right side view of the device. The drawing shows the side profile of the device, highlighting the hinge mechanism of the lid. A single horizontal dimension line at the bottom is labeled 67, 81.	 Back view of the device. The drawing shows the rear face, which includes a large rectangular area, possibly a battery cover or a secondary display, and a vertical protrusion at the bottom center.
右側面図	背面図

(単位:mm)